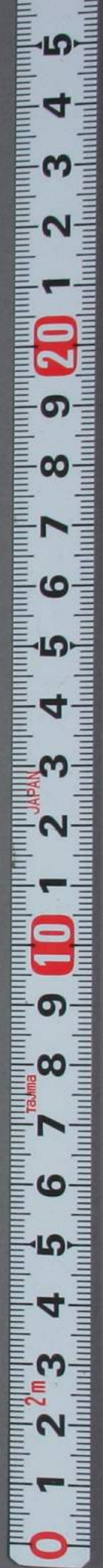




茶乃書也
四三

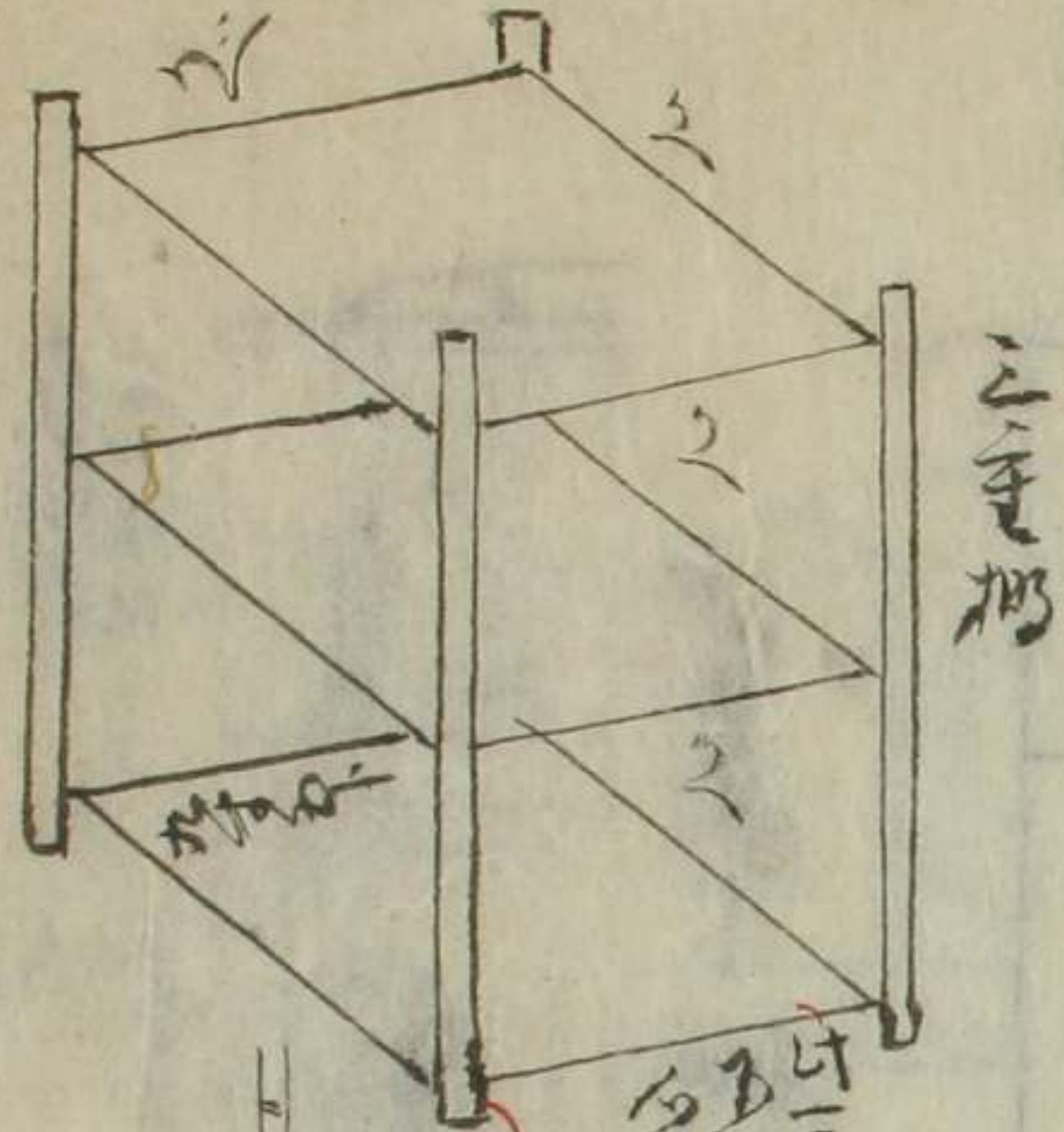
多
674
*3



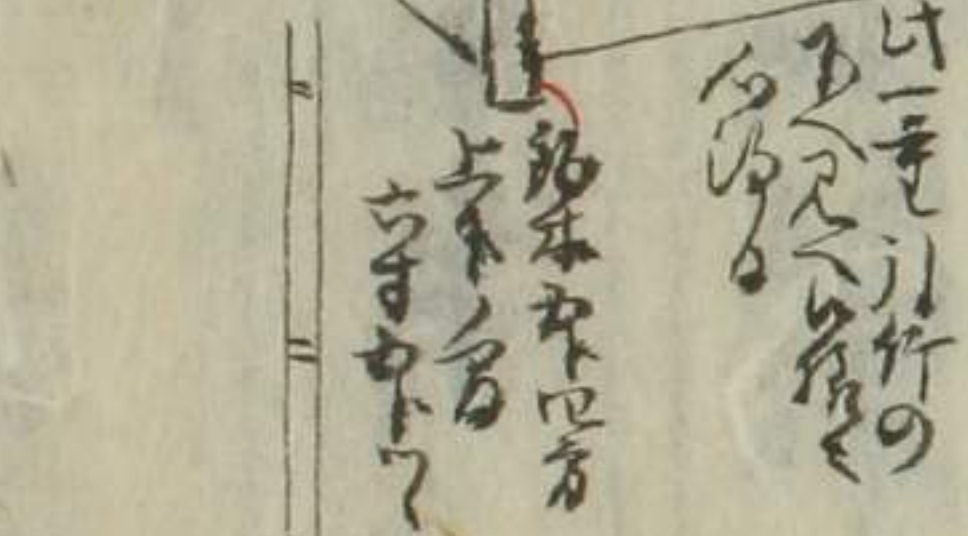


二百ヶ条のよ

上のよ



二手船



け二手引竹の
おせり
白ゆり

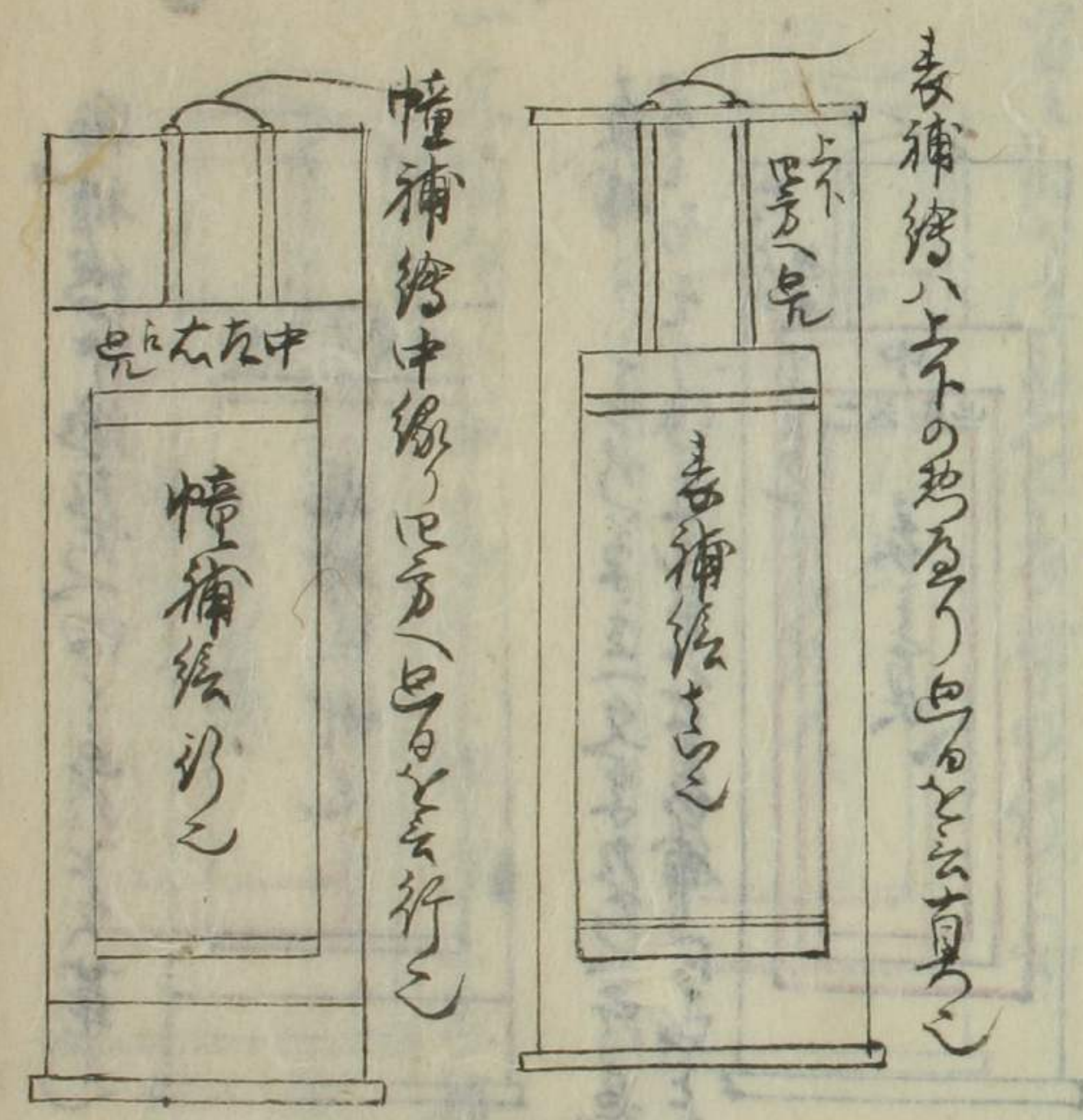
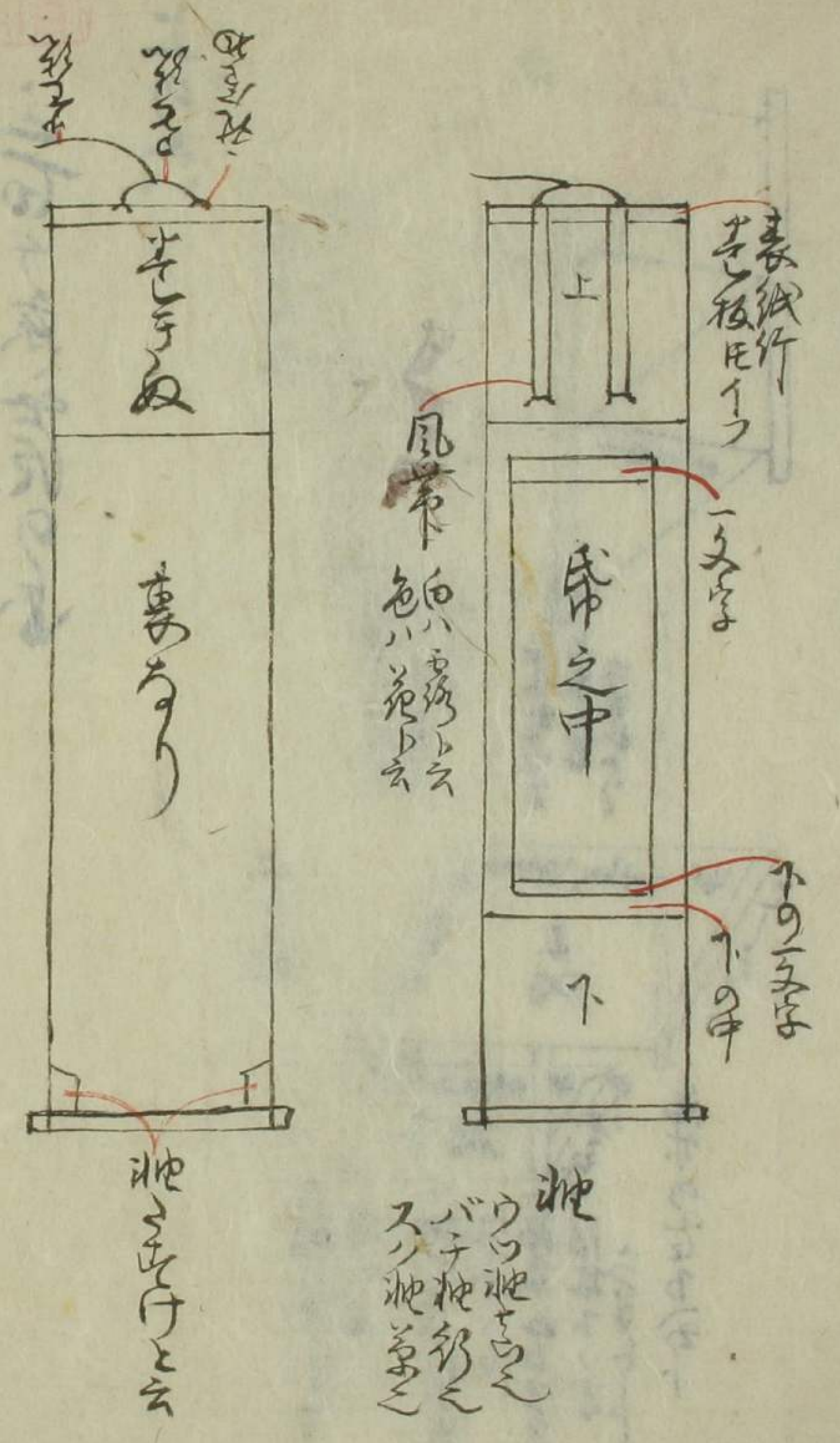
船本木四方
上下
さす中下



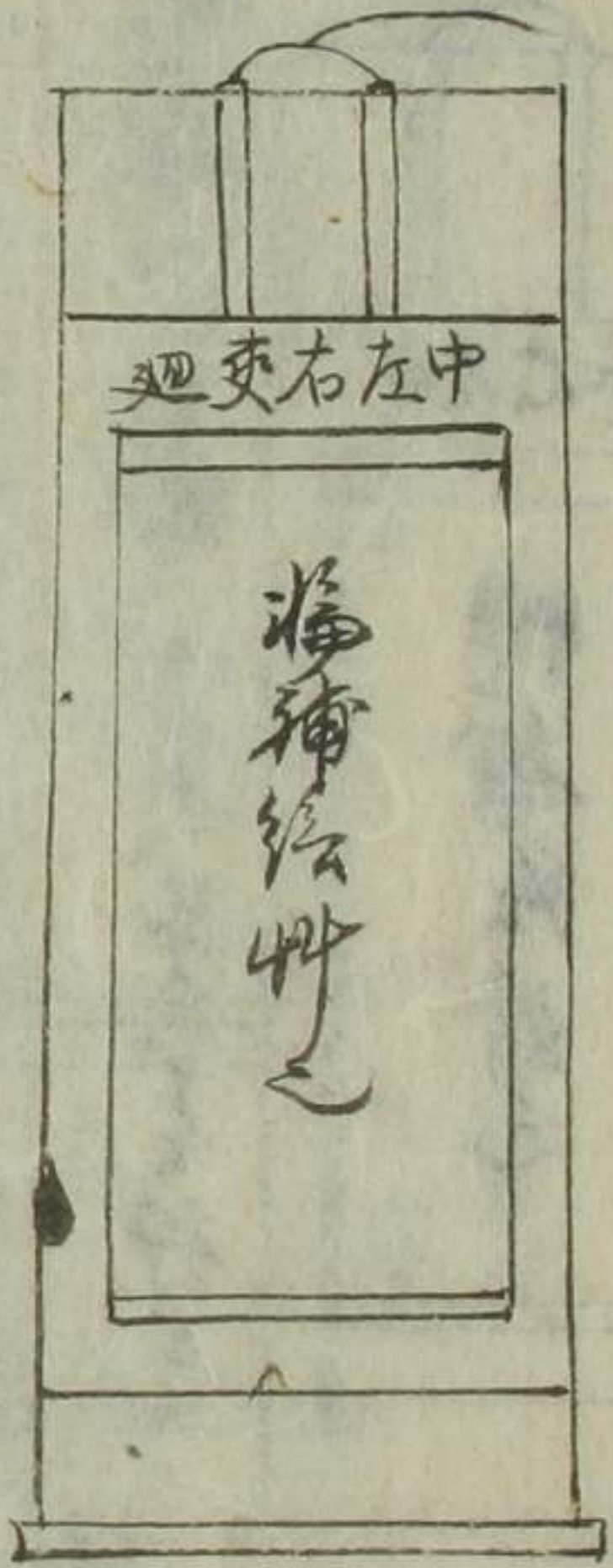
二手船

二手引竹のよ
おせり
一桁有サお下
上下
船本木四方
上下
さす中下
船本の七はわお下





梅補終中綴丸方細く巻く草

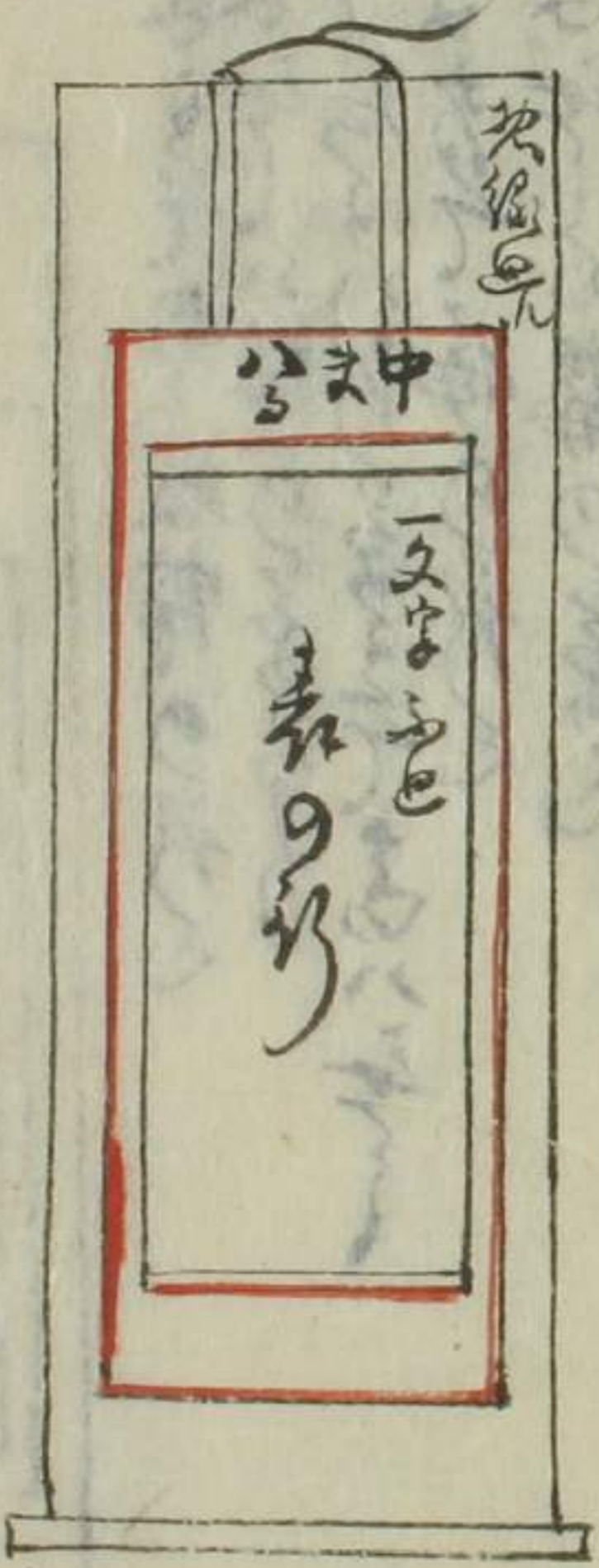


表補すしとあつるまは一文字ならんは丸く巻く終とす
 丸く巻くすしとあつるまは一文字ならんは丸く巻く終とす

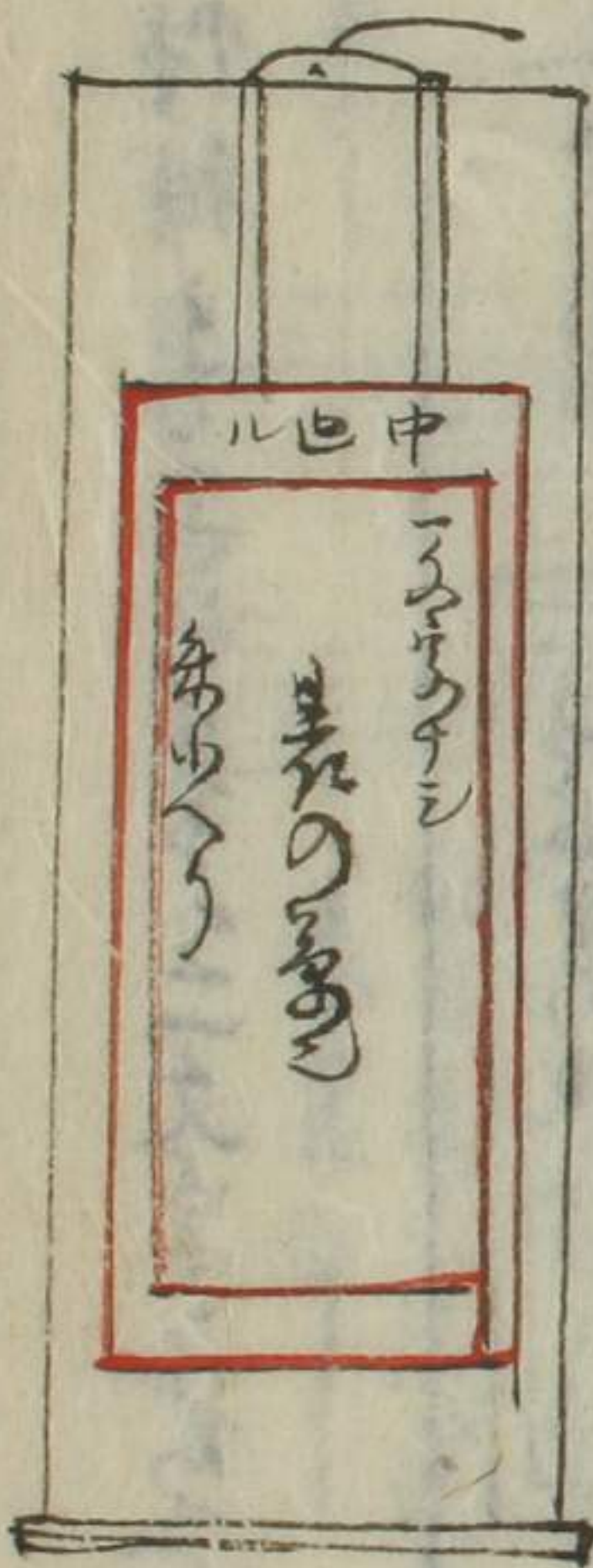


丸く巻く

一文字を丸く巻く終とす丸く巻くすしとあつるまは一文字ならんは丸く巻く終とす



一文字を丸く巻く終とす丸く巻くすしとあつるまは一文字ならんは丸く巻く終とす

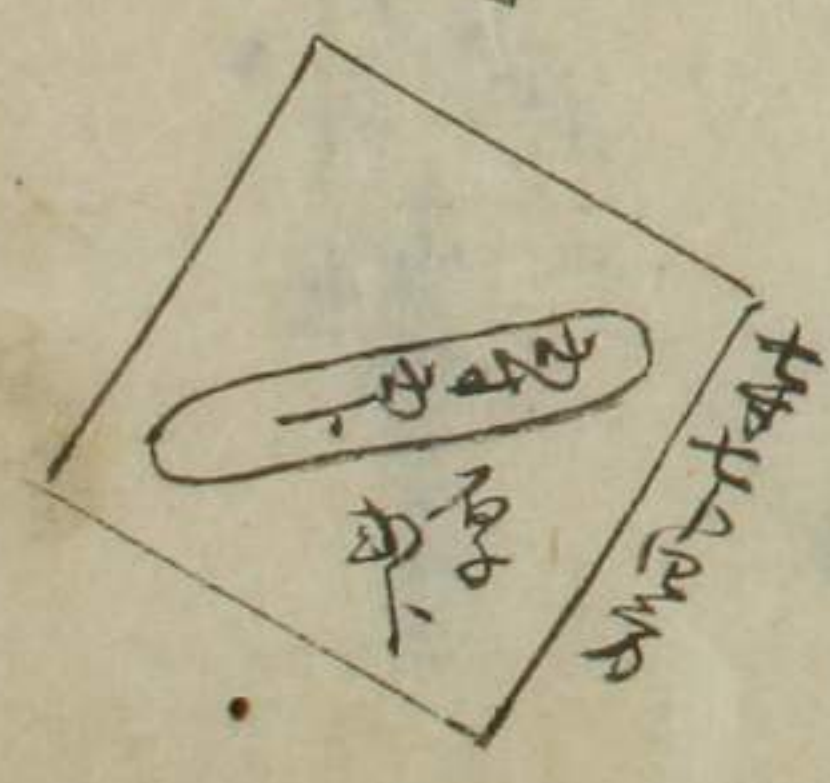
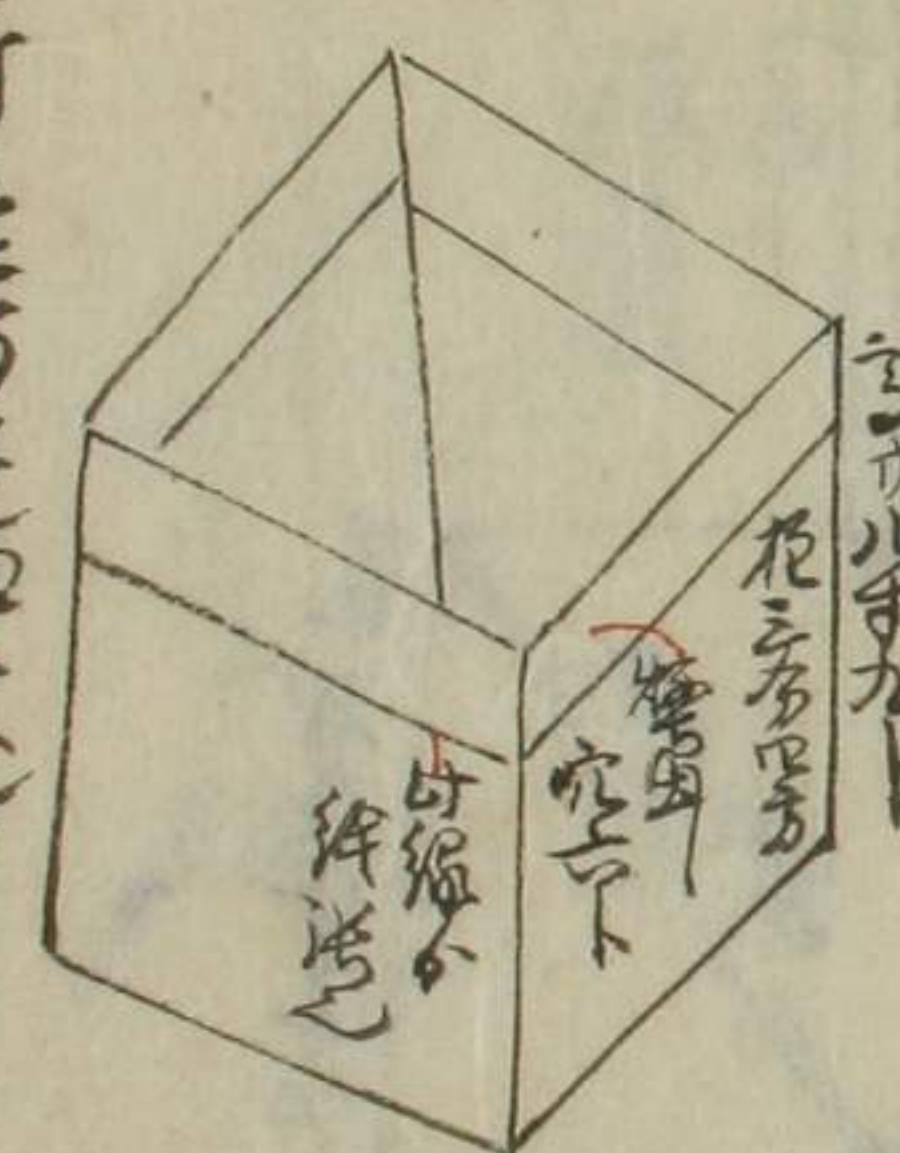
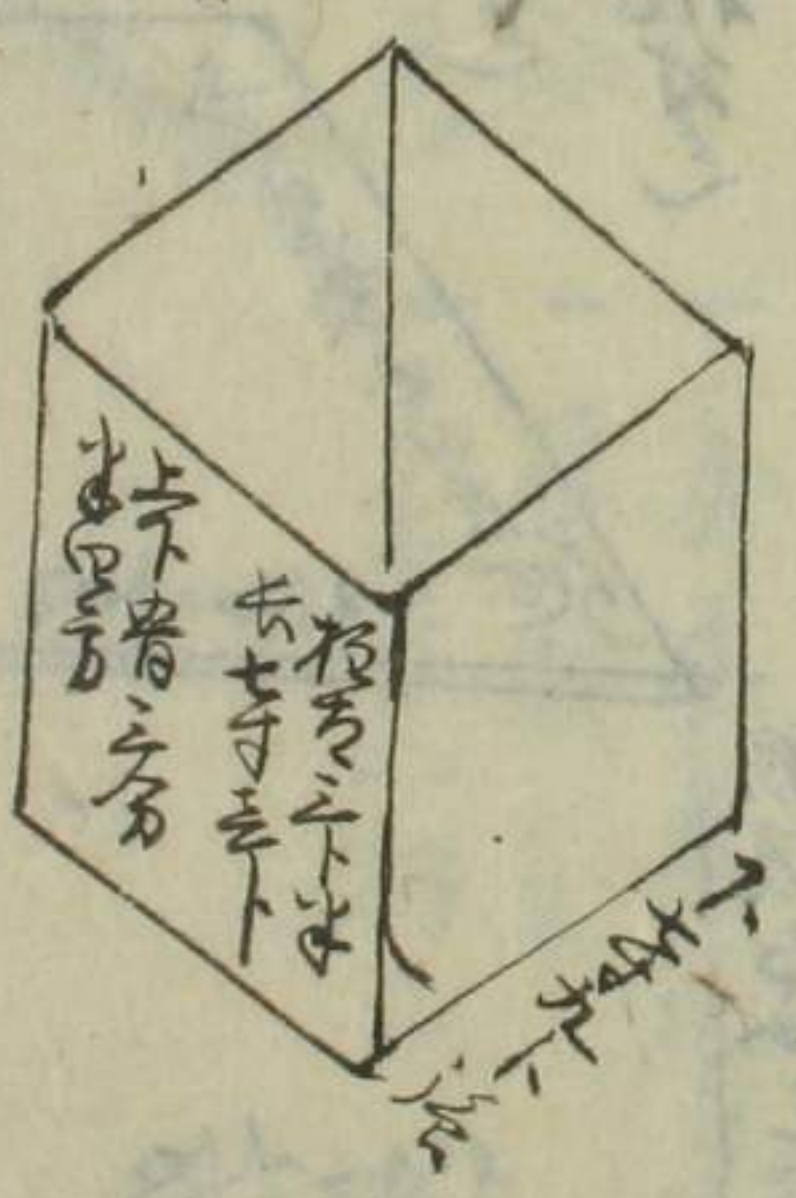


上
二午四

新燈の意

四方角一方向なる

上七寸五分



九寸の巾を天井板より作ると七寸五分は理に合はぬなり



大板

大板は丸目を用いて
作り出し丸目を用

大板は丸目を用いて作り出し丸目を用
丸目を用いて作り出し丸目を用

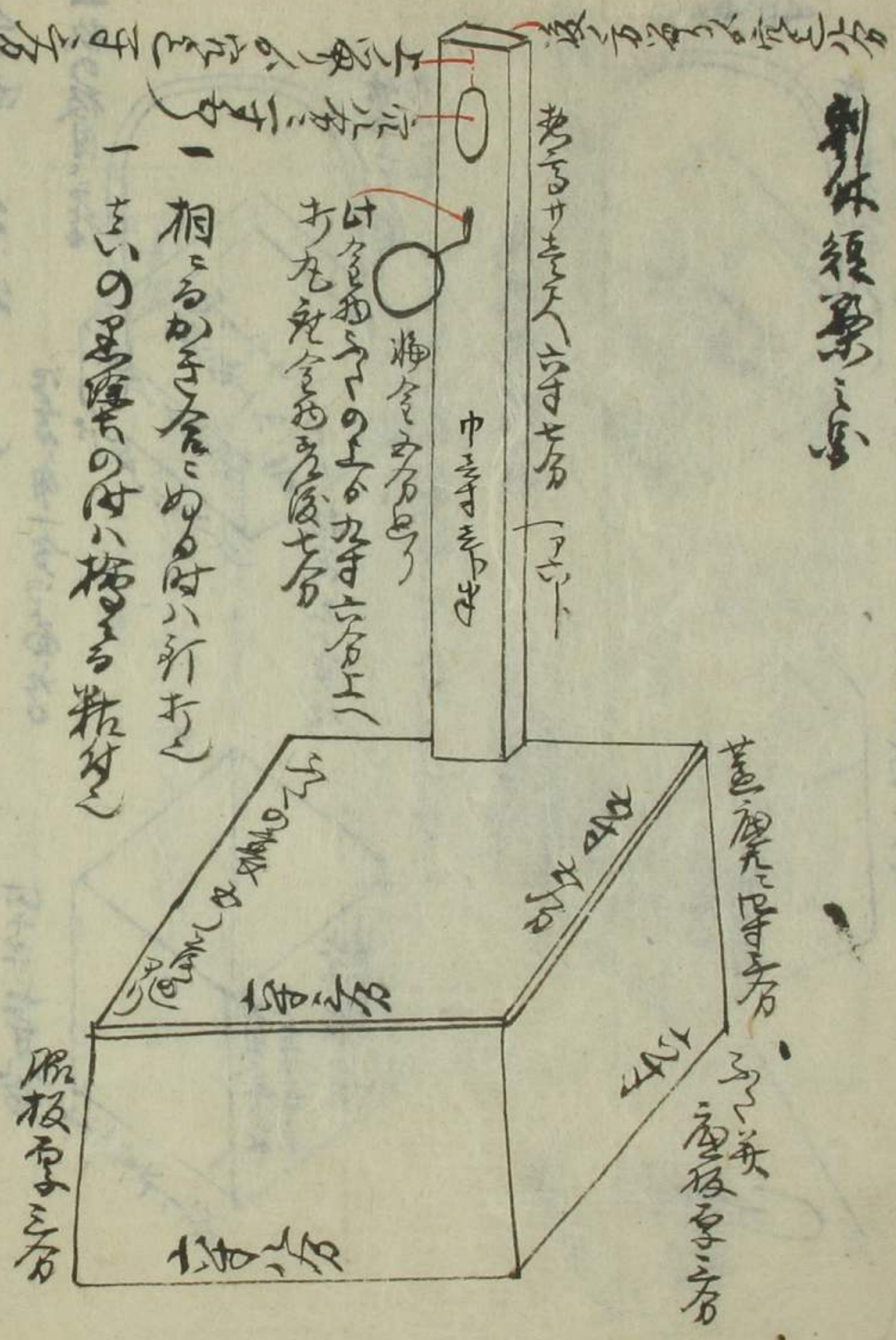


小板

小板は丸目を用いて作り出し丸目を用

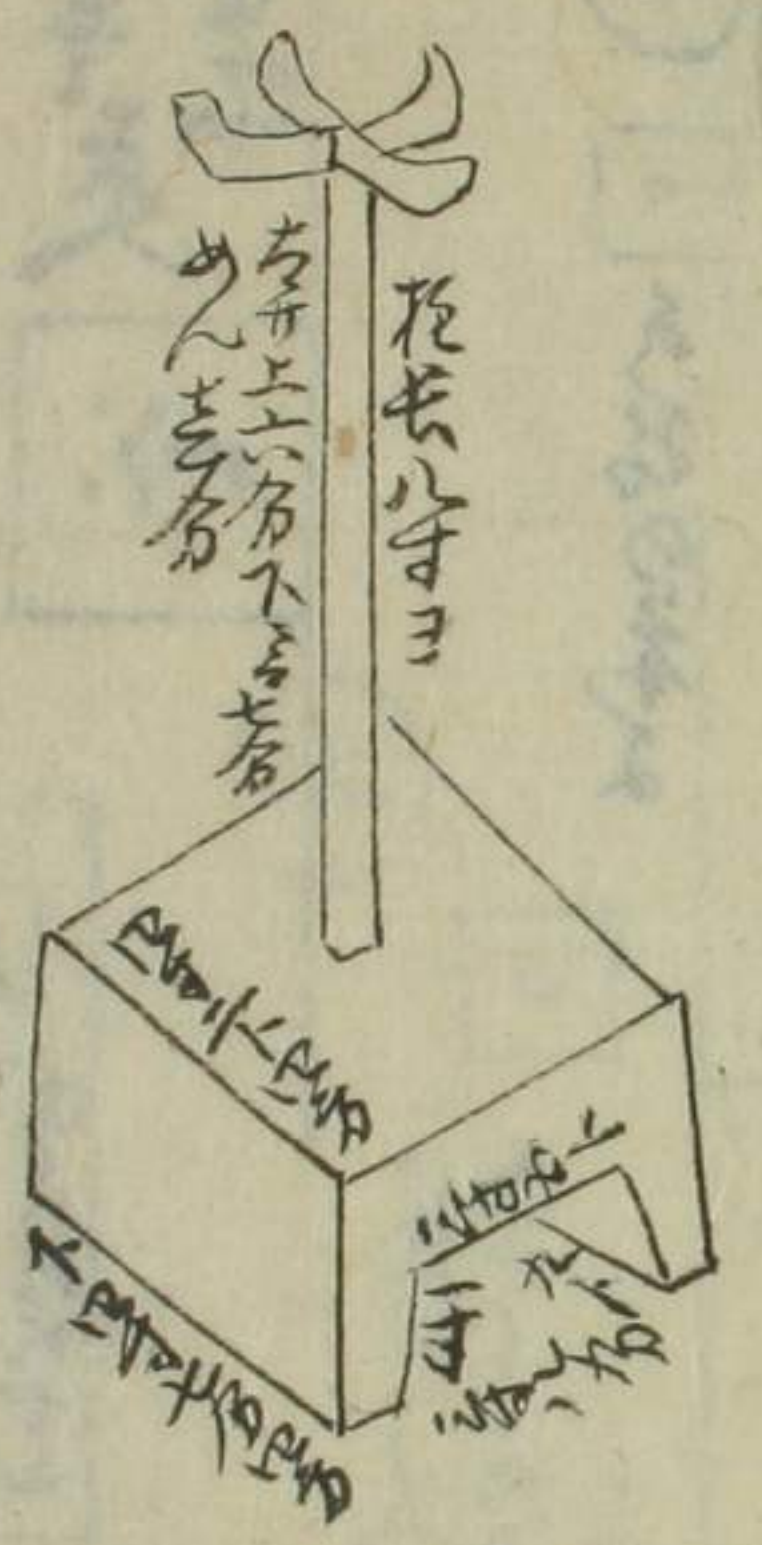
小板は丸目を用いて作り出し丸目を用
丸目を用いて作り出し丸目を用

別体鏡架



- 一 相する向きをいかにしよ
- 一 鏡の向きをいかにしよ

巾鏡架



- 一 鏡架の長さ
- 一 鏡板の長さ
- 一 鏡架の幅

この図は四方の長さを示す

掛燈臺



板架

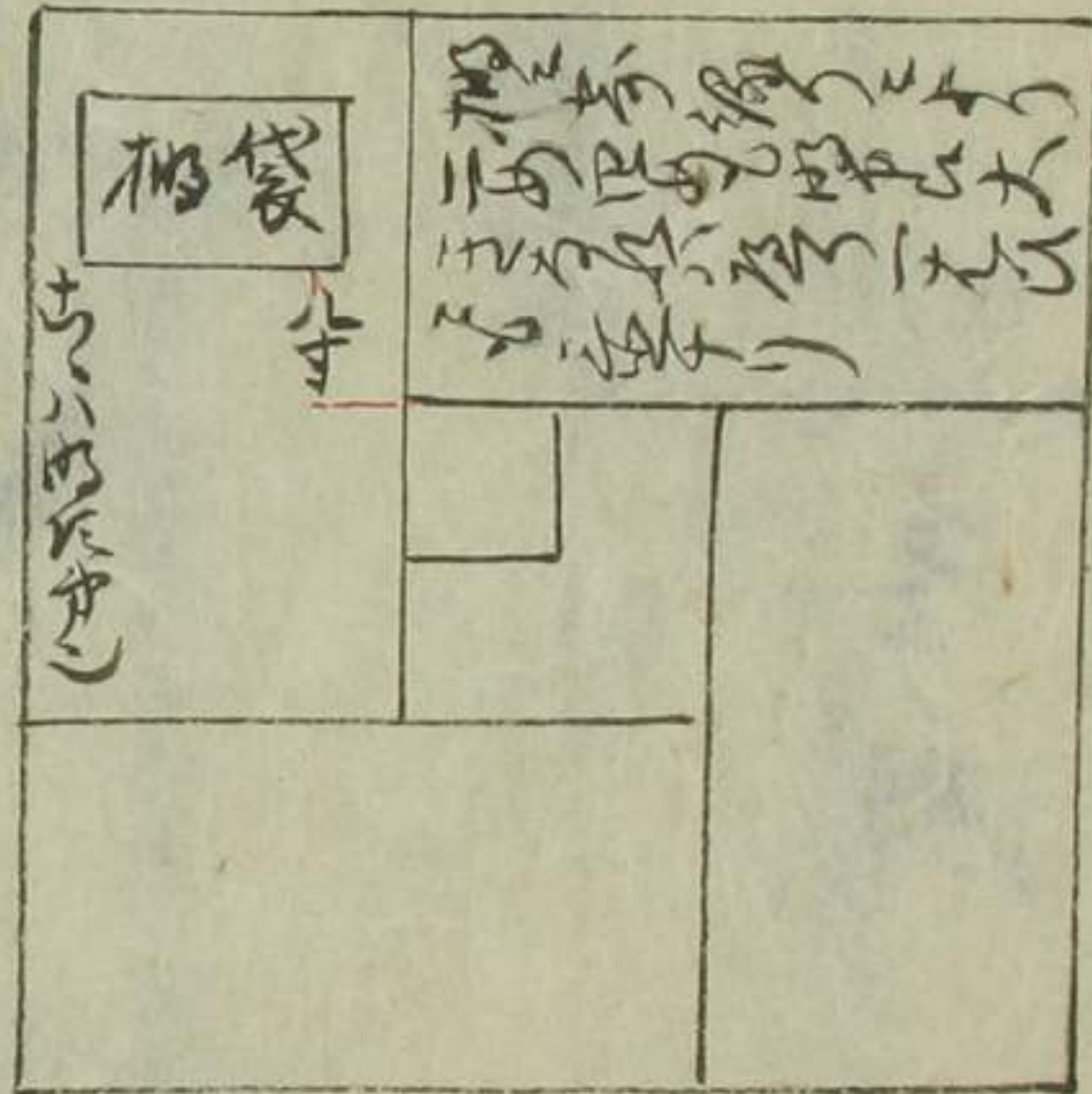
クモテ相

上
二七

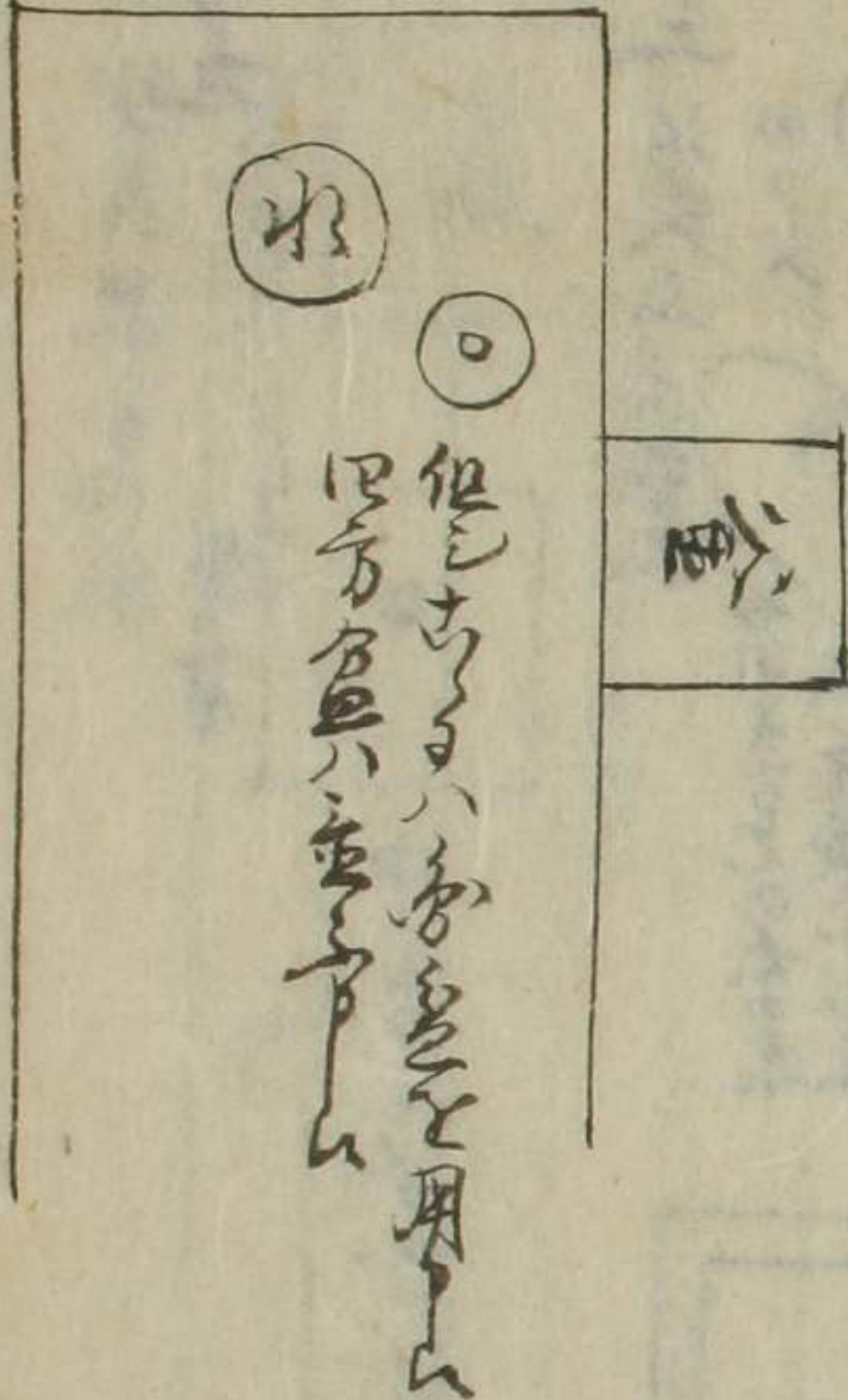
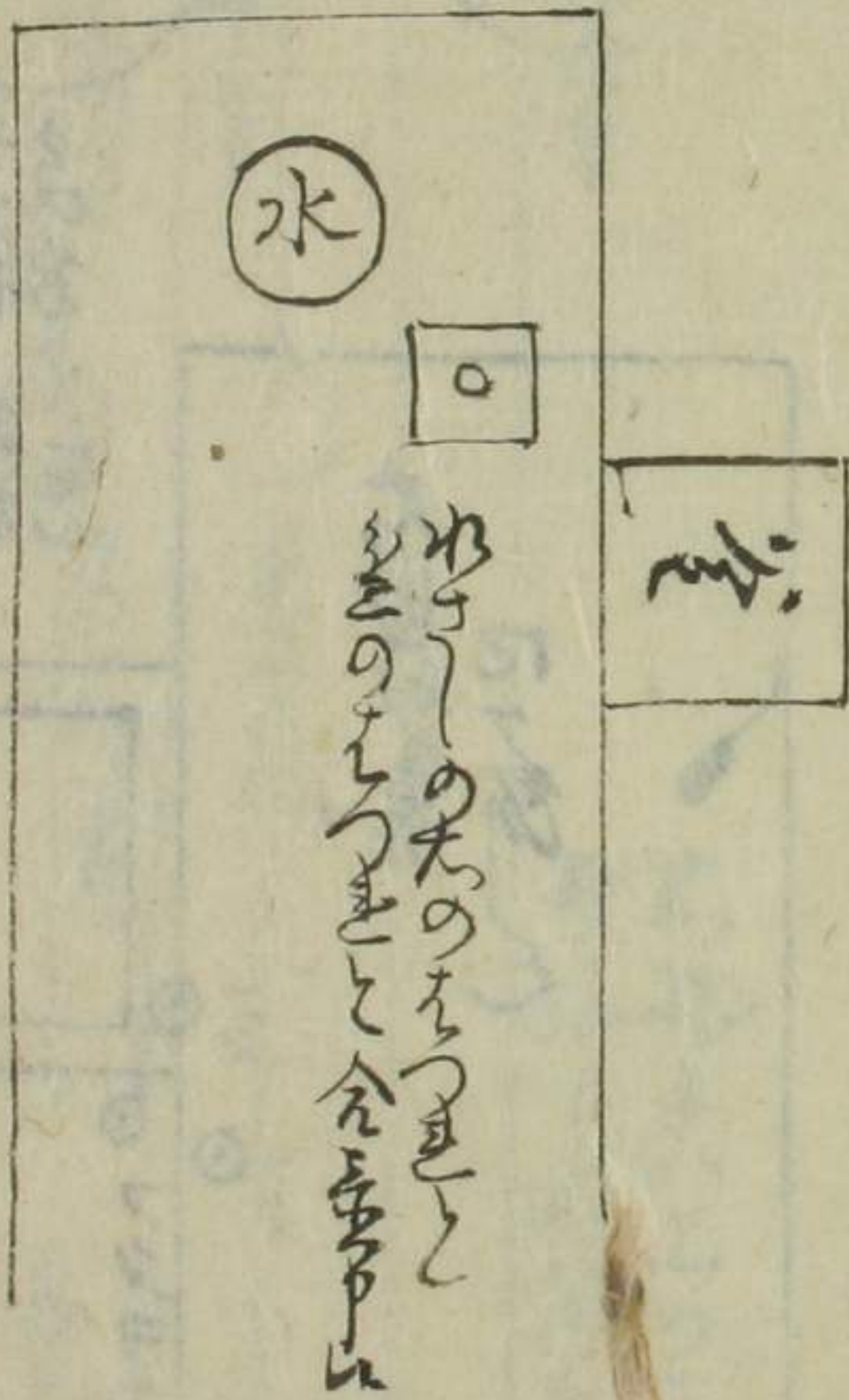
代名柳野道
とよみ

目
二八

美
水

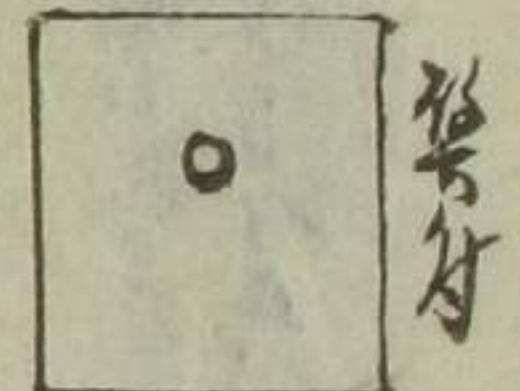


水
○
○
○
○
○
このねり二斗りせんとるの入り
油あり
トウコ



○
○
○
但し六斗りハ水と用い
四斗りハ水と用い

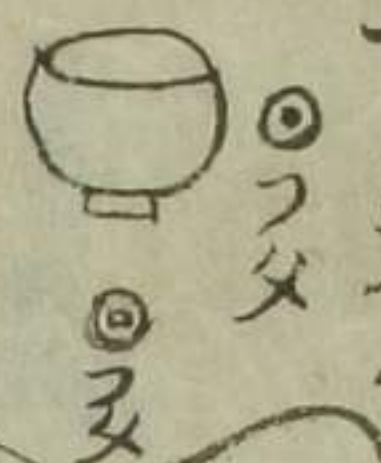
上ノ
三十九



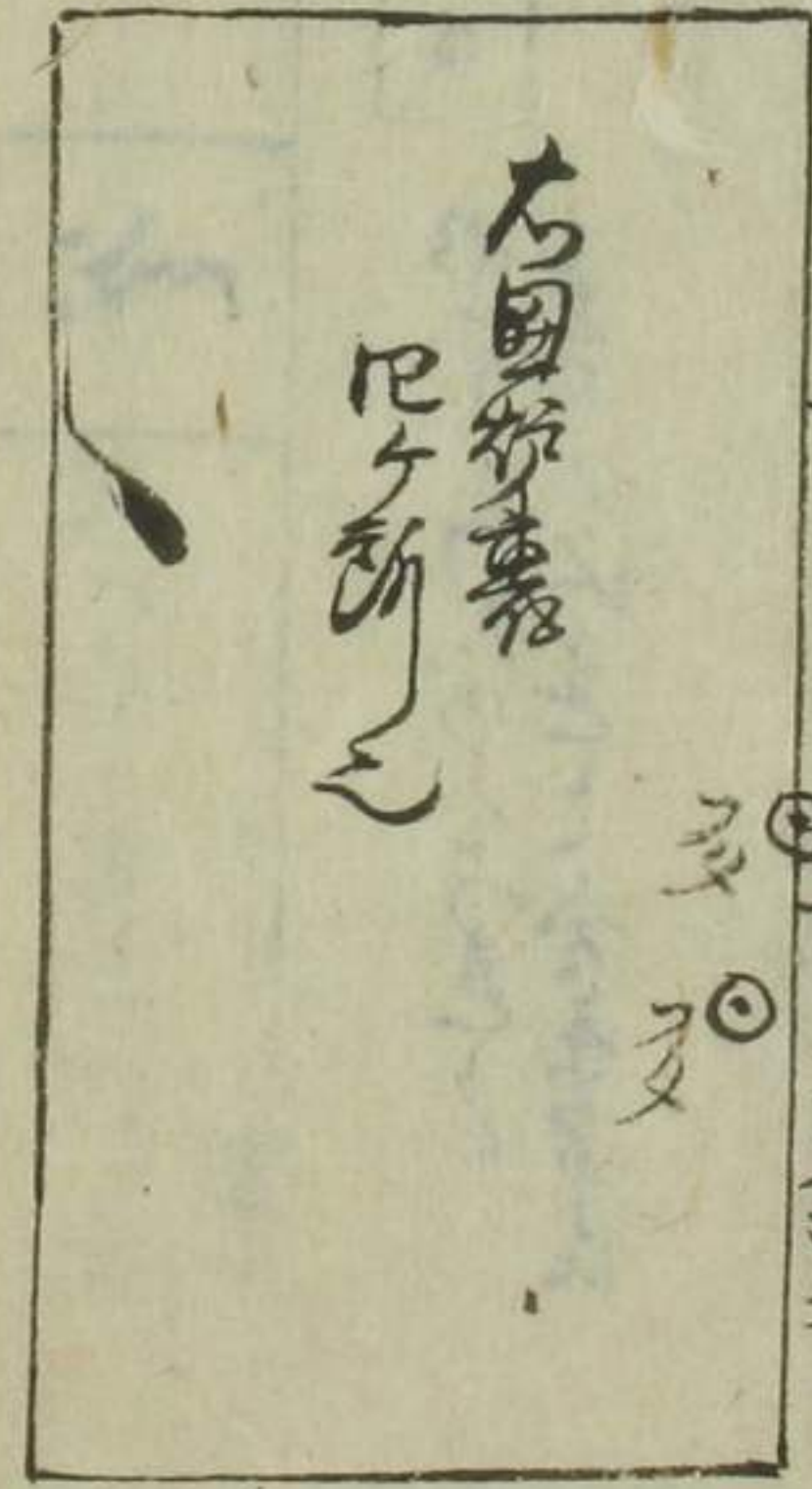
中をこしおろし裏に押入をこ

日

甲十二 築舟のつくり



おのろしおのろし
又おのろしと
おのろし

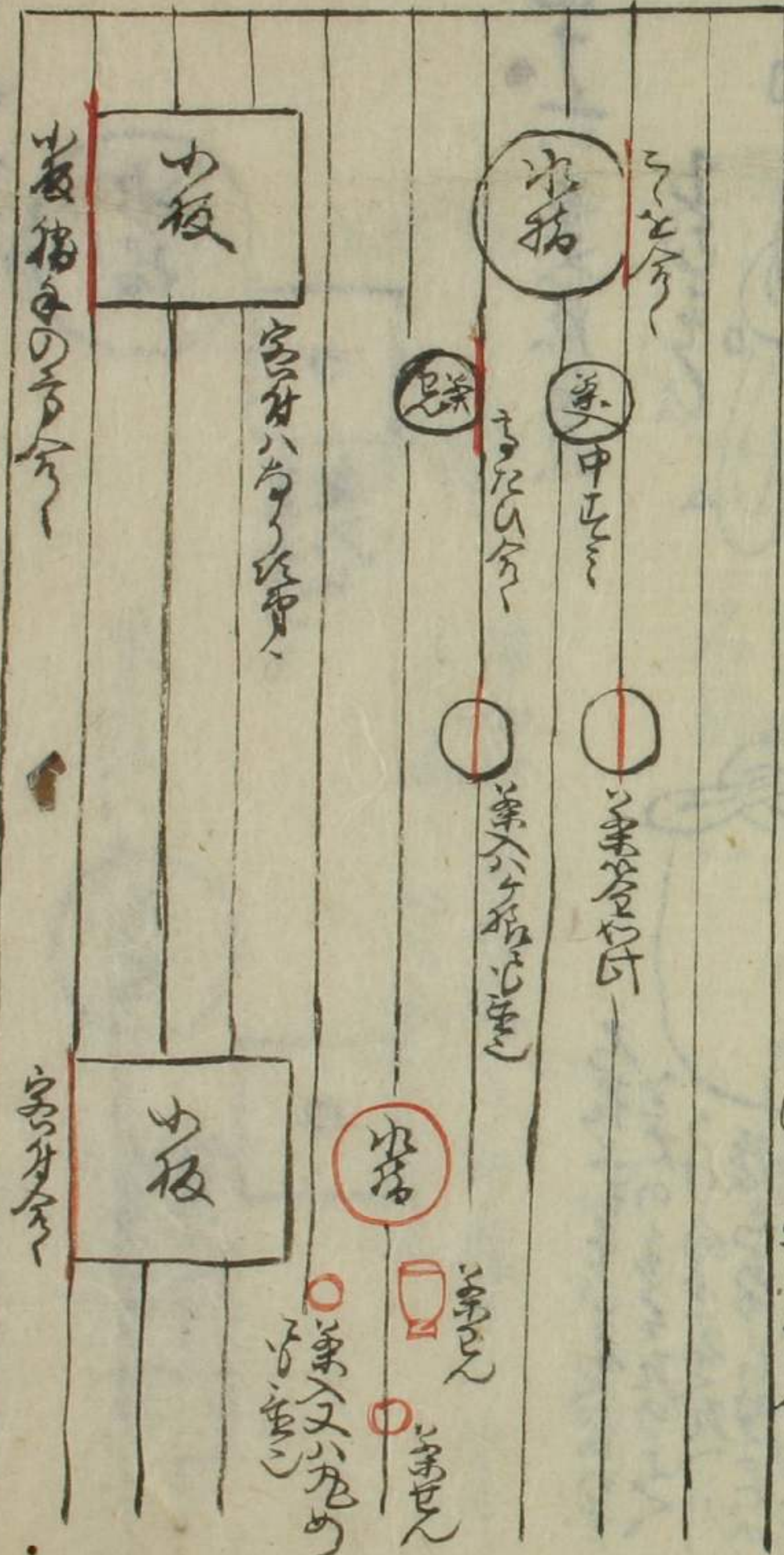


つた
つた

日
四十三

大船舟のつくり

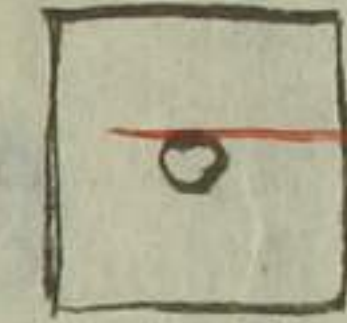
大船舟の上の丸舟を
打返し築舟を今



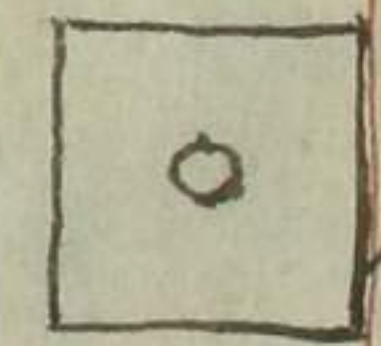
大船舟のつくり

大船舟のつくり

上
田
組入



組入
三
子



水
の
大
の
水
と
引
入

田
甲
六
葉
入
後
仕
組



水
の
大
の
水
と
引
入
の
大
の
水
と
引
入
の
大
の
水
と
引
入



水
の
大
の
水
と
引
入
の
大
の
水
と
引
入



水
の
大
の
水
と
引
入
の
大
の
水
と
引
入



水
の
大
の
水
と
引
入
の
大
の
水
と
引
入

大目と大目との



大目と大目との
大目との大目との

大目との大目との
大目との大目との



大目との大目との
大目との大目との

大目との大目との



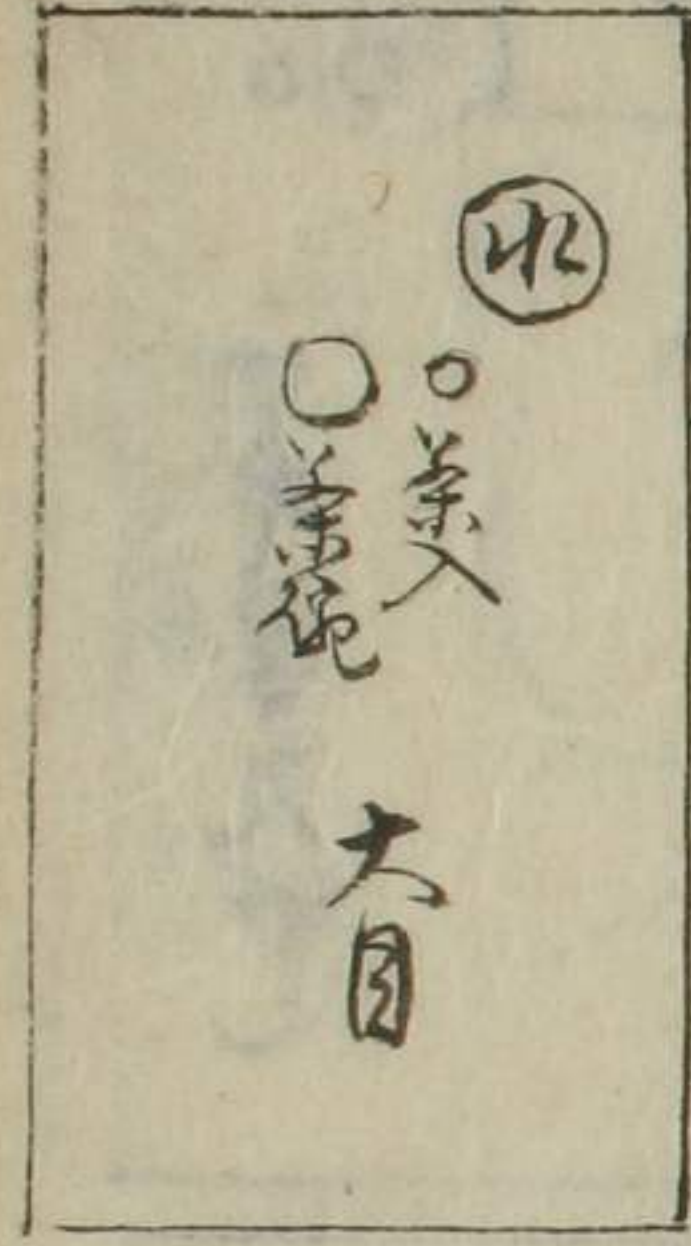
大目との大目との

大目との大目との
大目との大目との



大目との大目との

大目との大目との



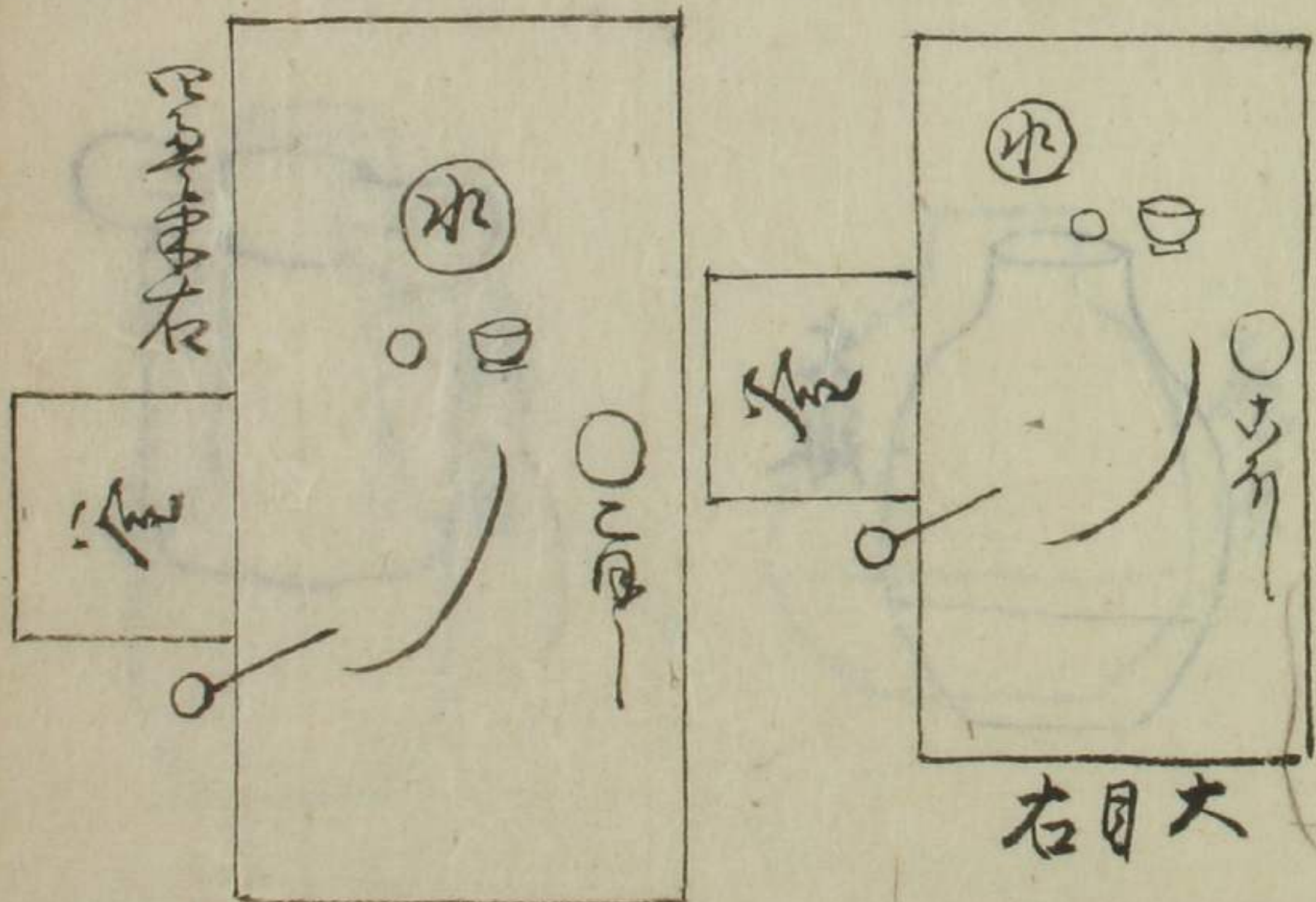
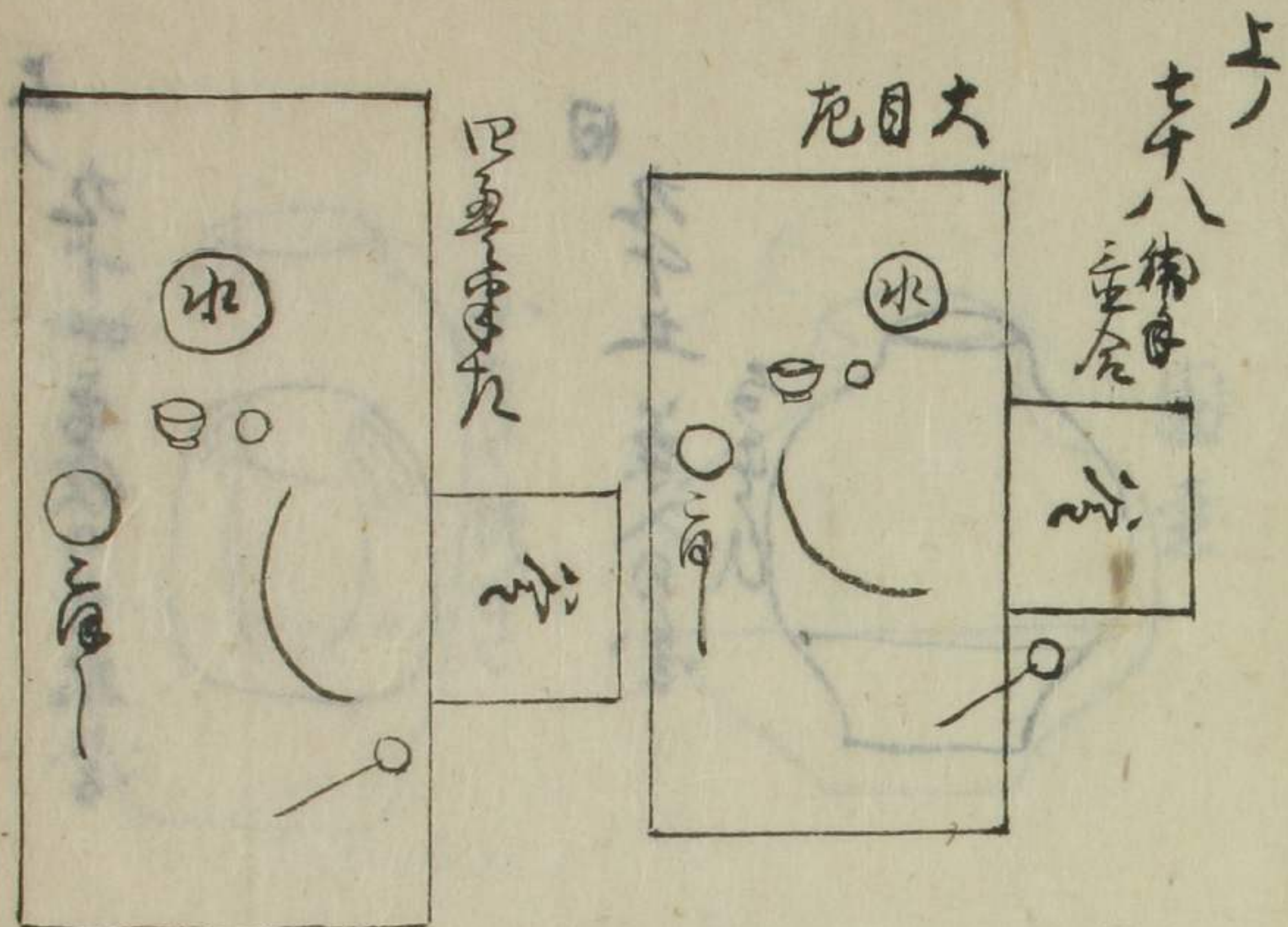
大目との大目との

大目との大目との

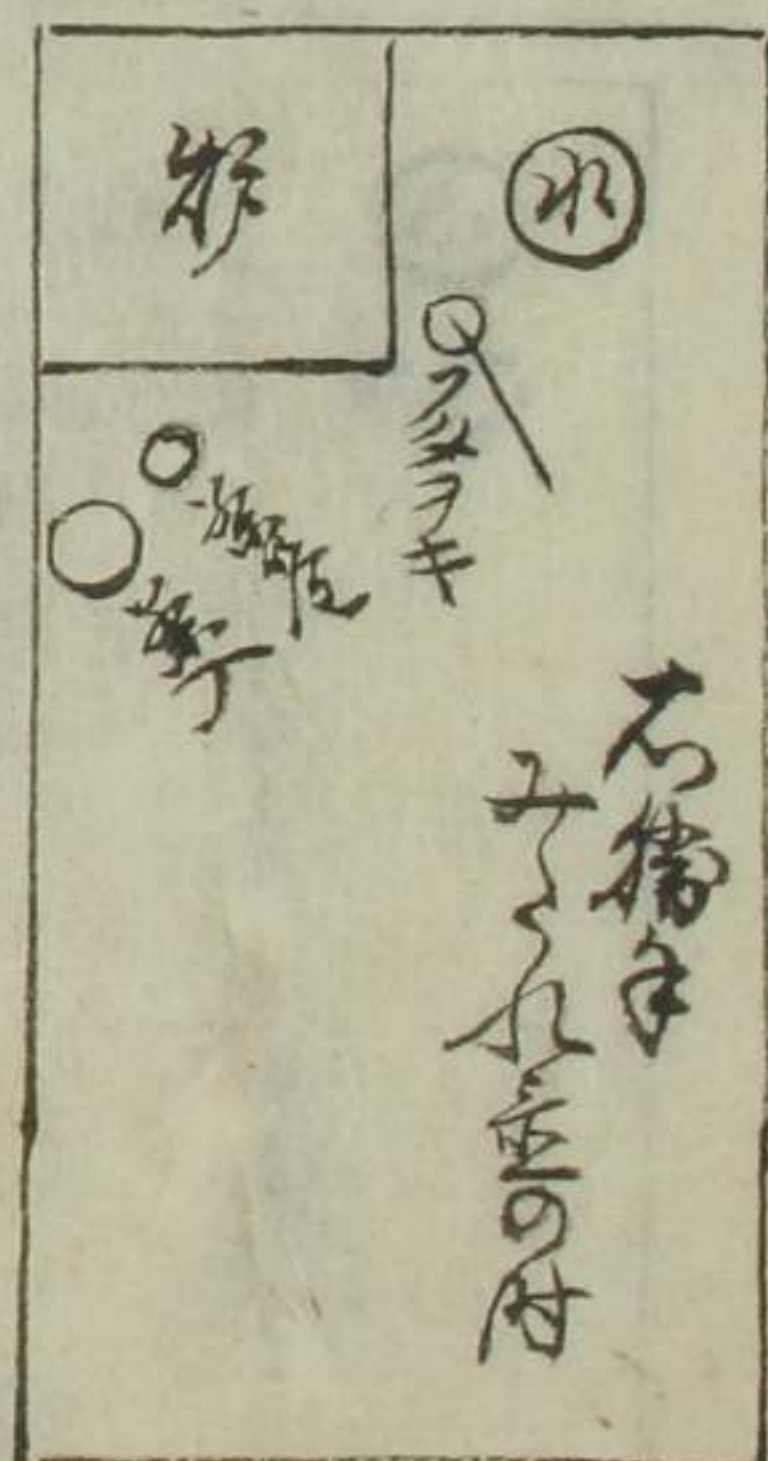
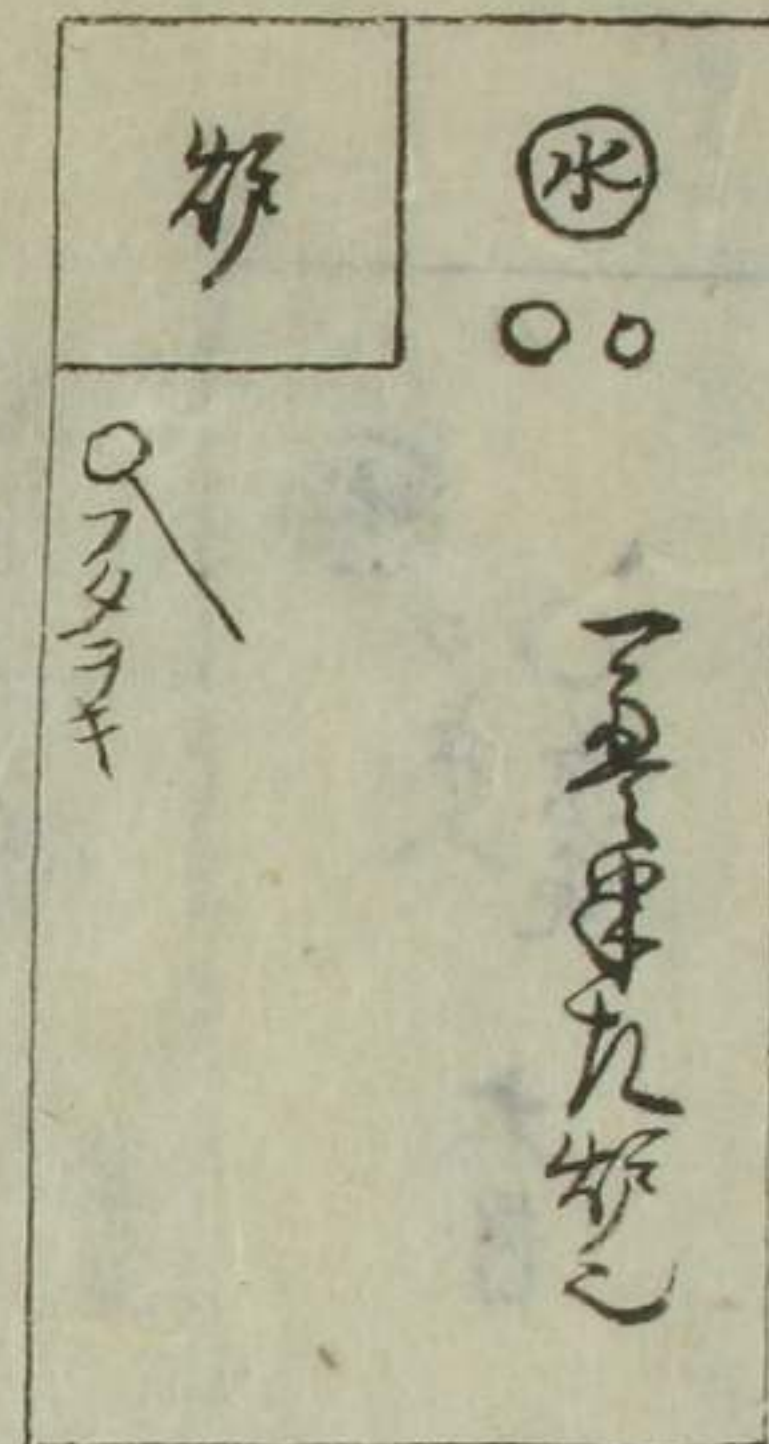
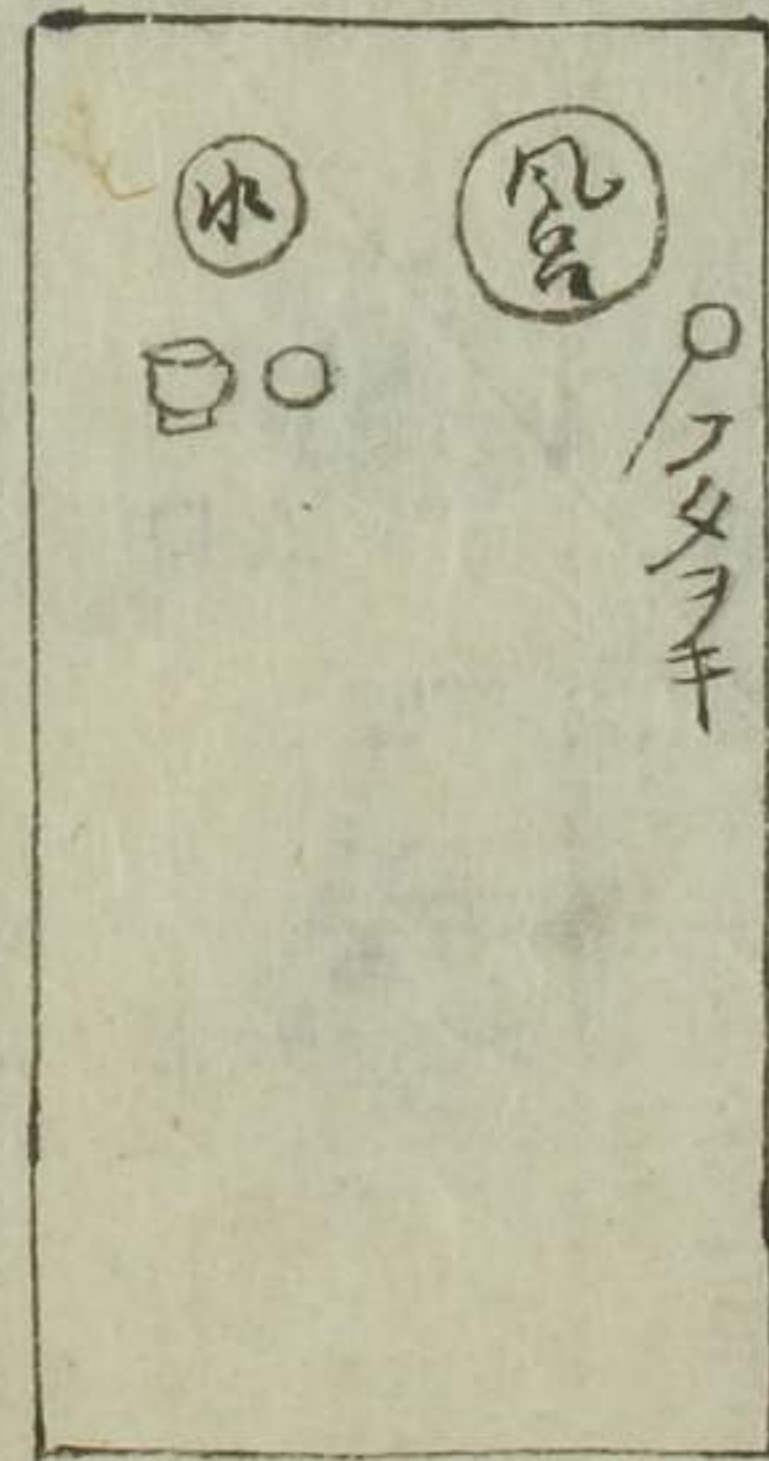
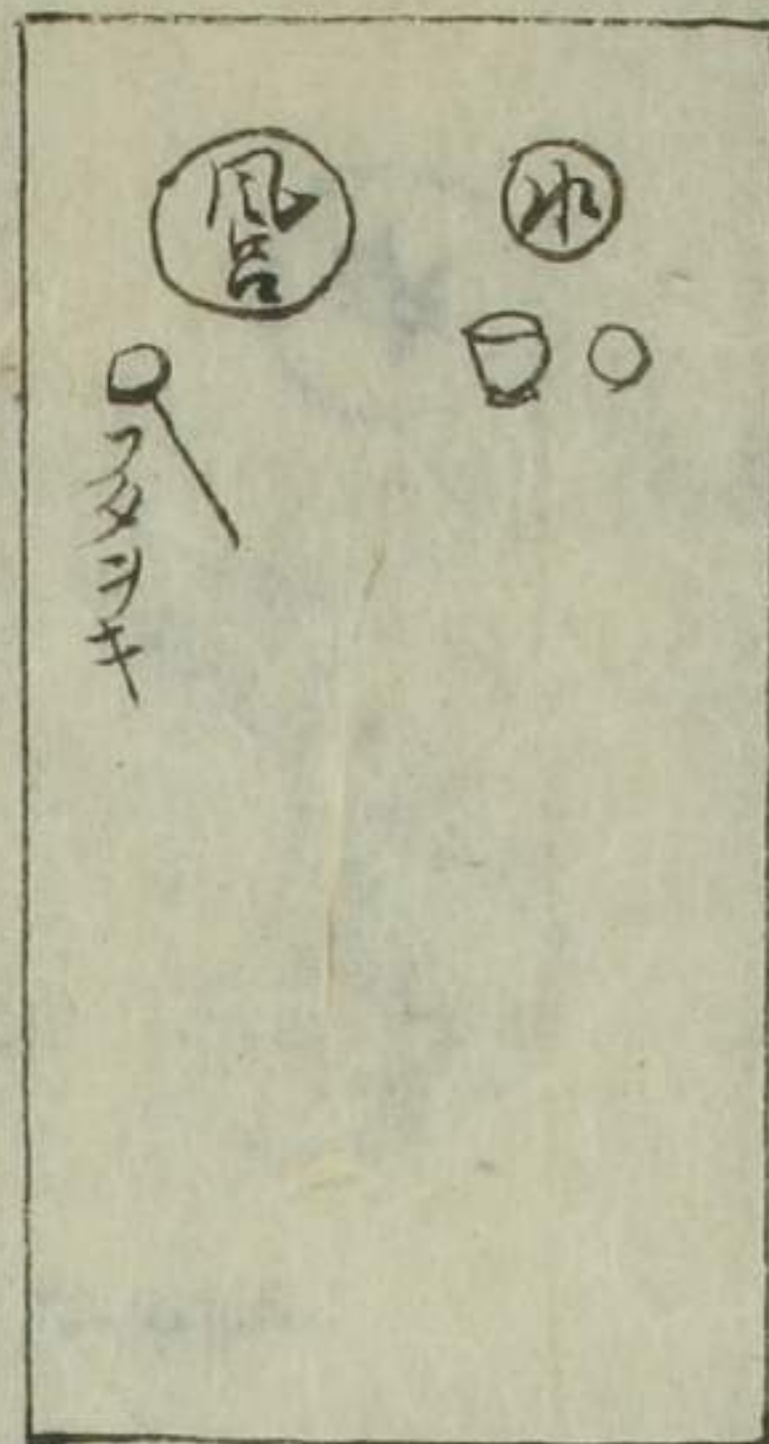


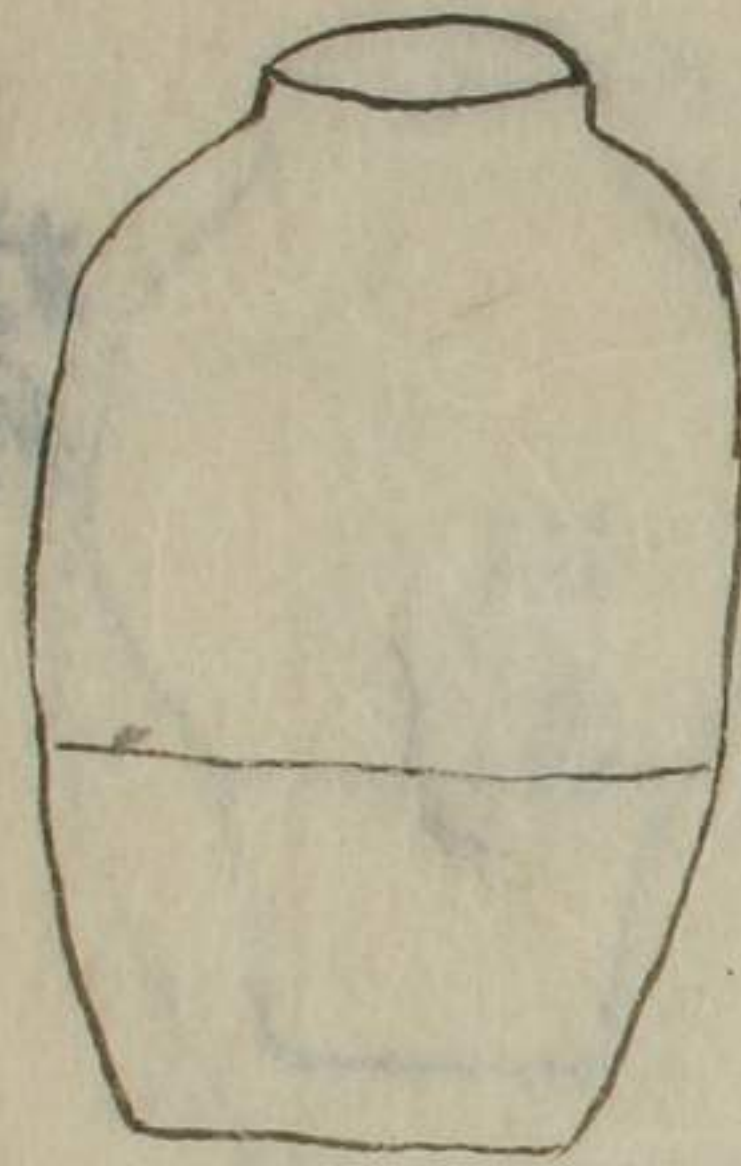
大目との大目との

大目との大目との

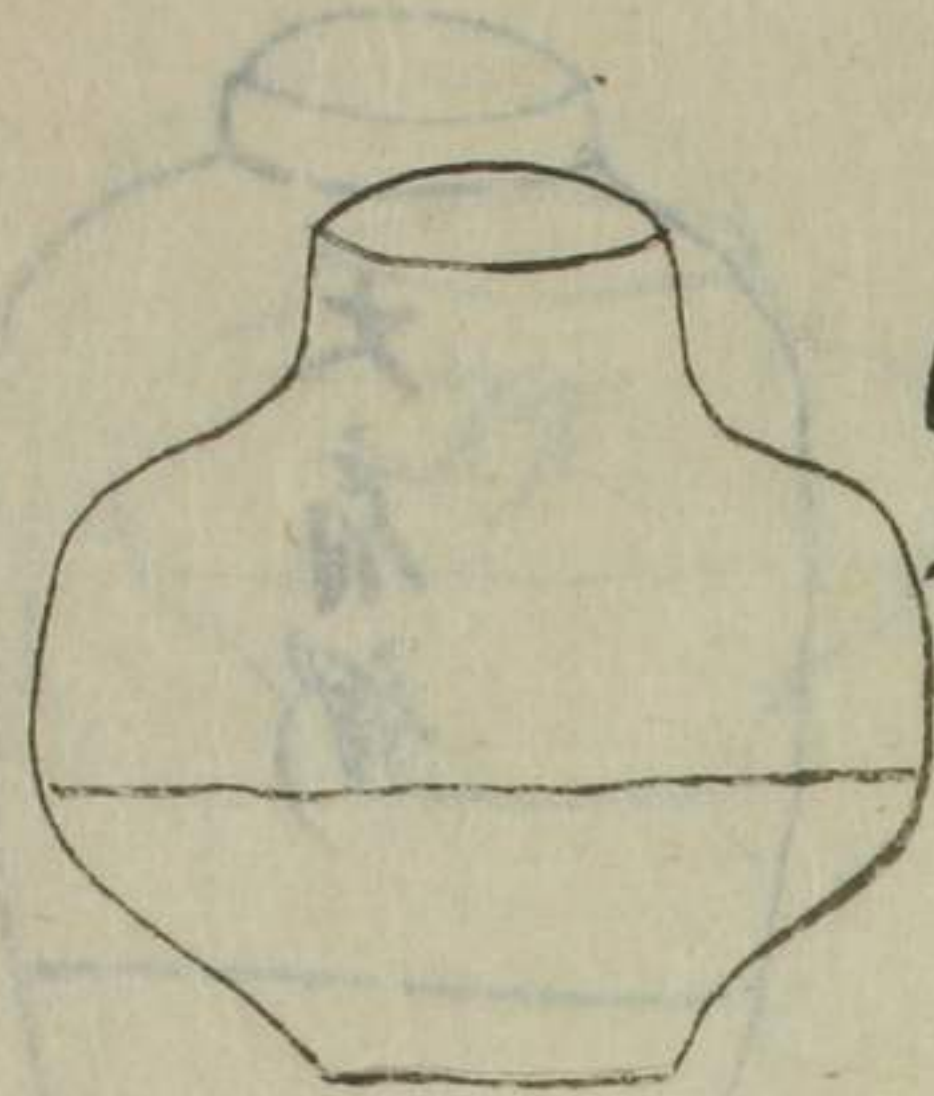


本八の...
木...
大目丸の...
右目丸の...

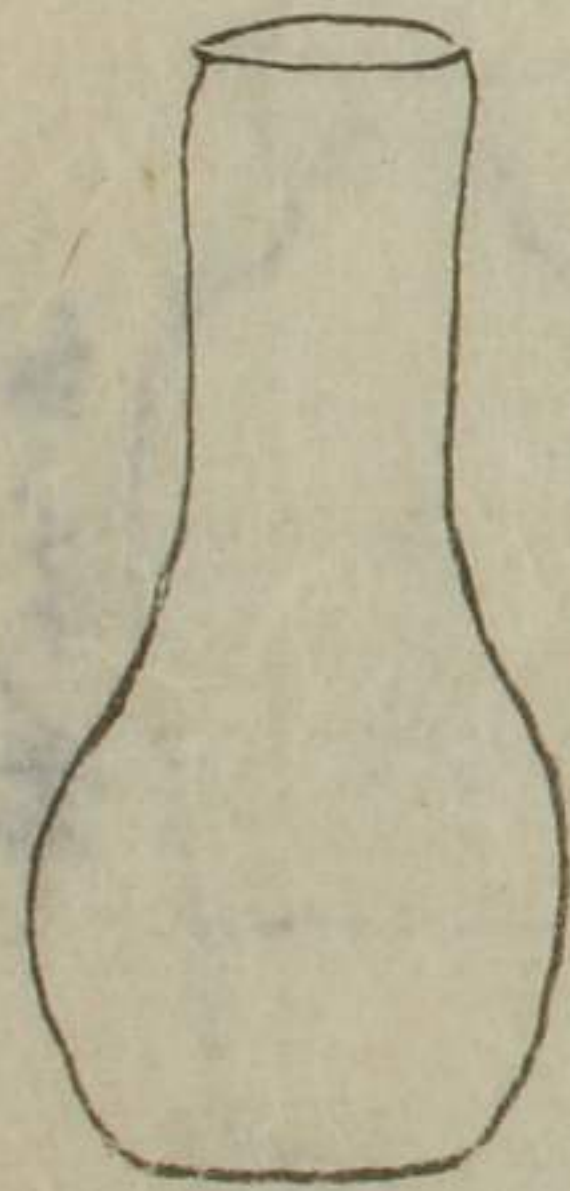




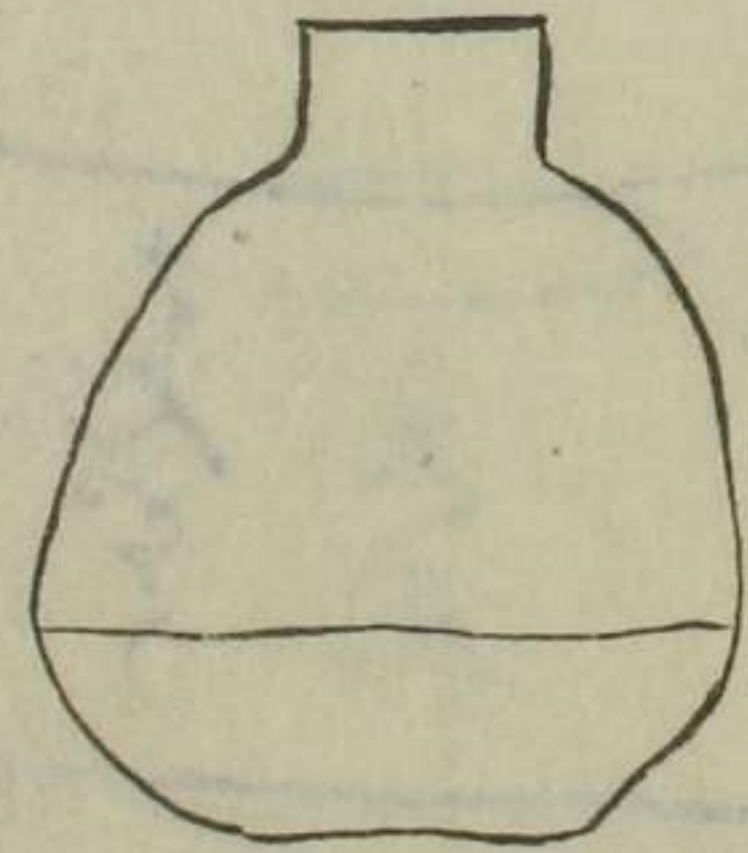
小くは手



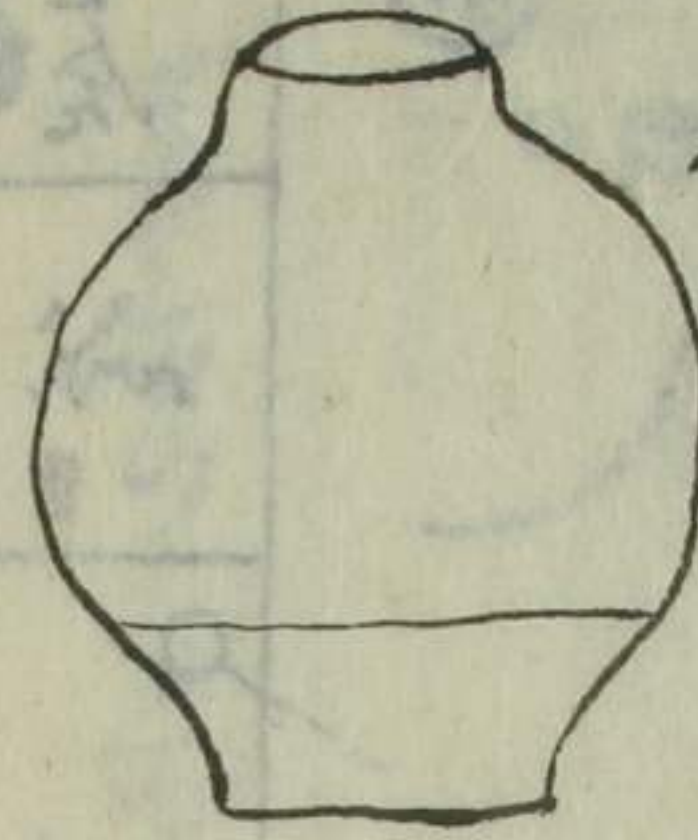
圓壺



玉瓶



瓶

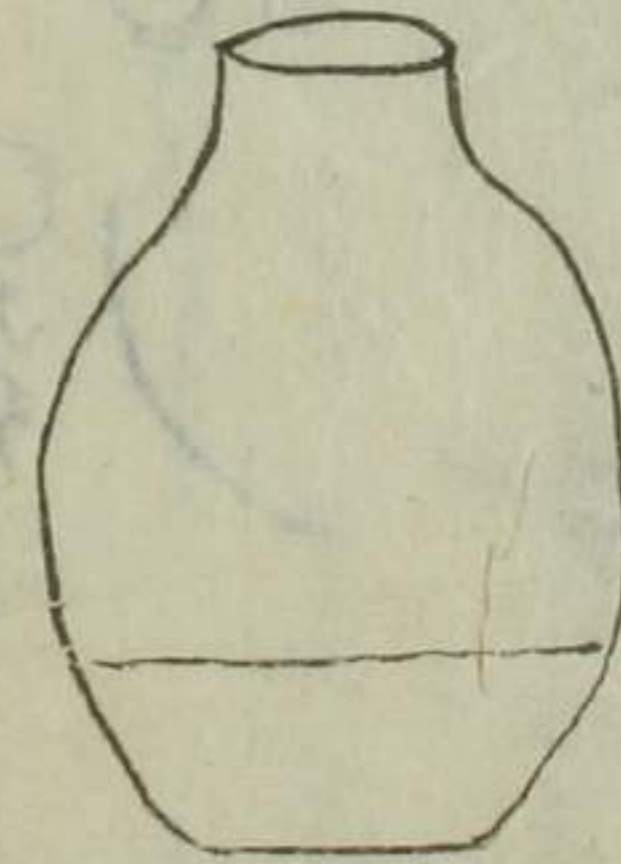


有土

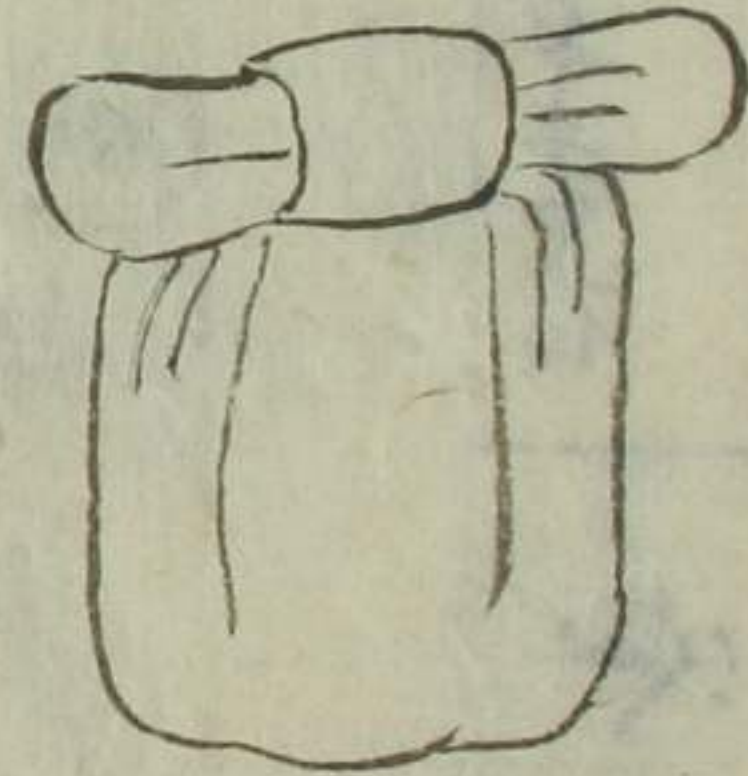
日
九千五葉入の壺

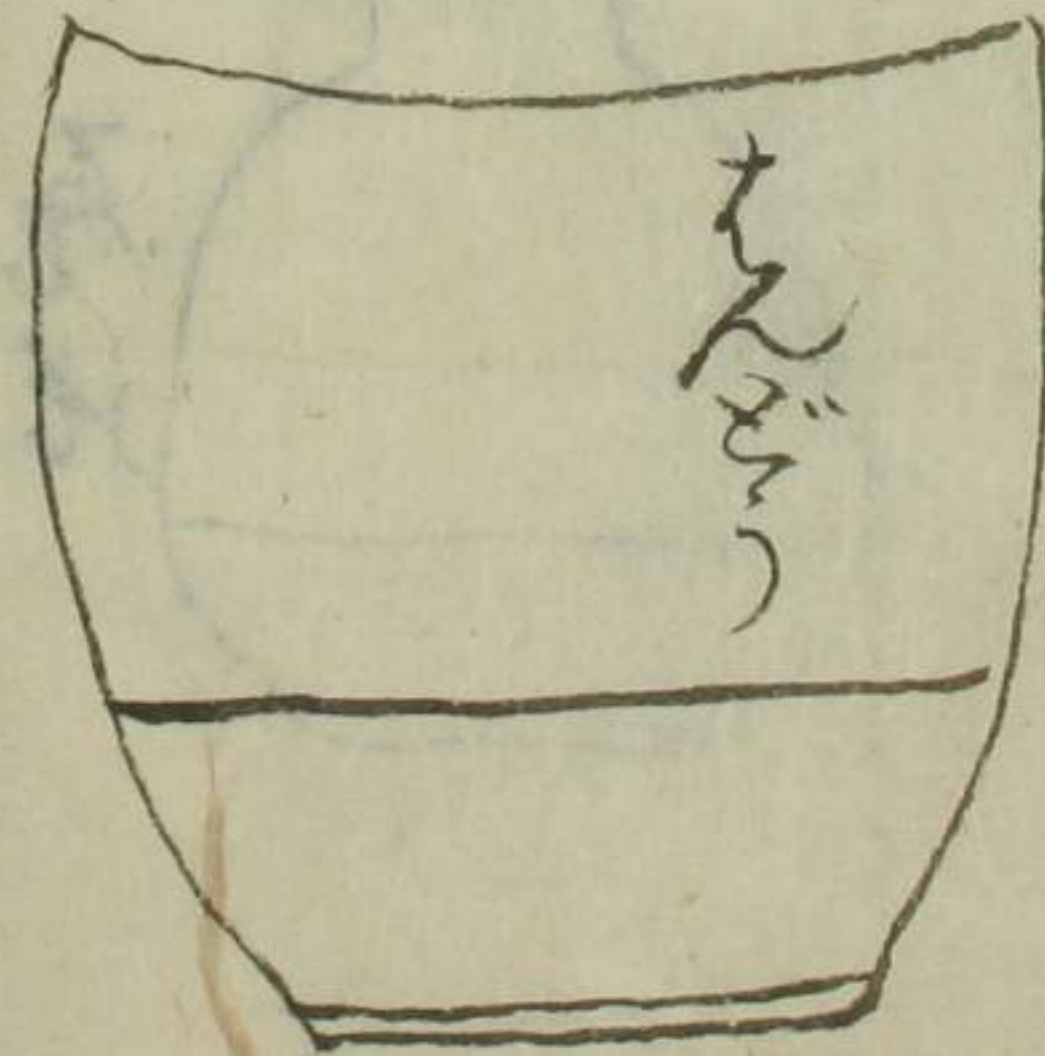
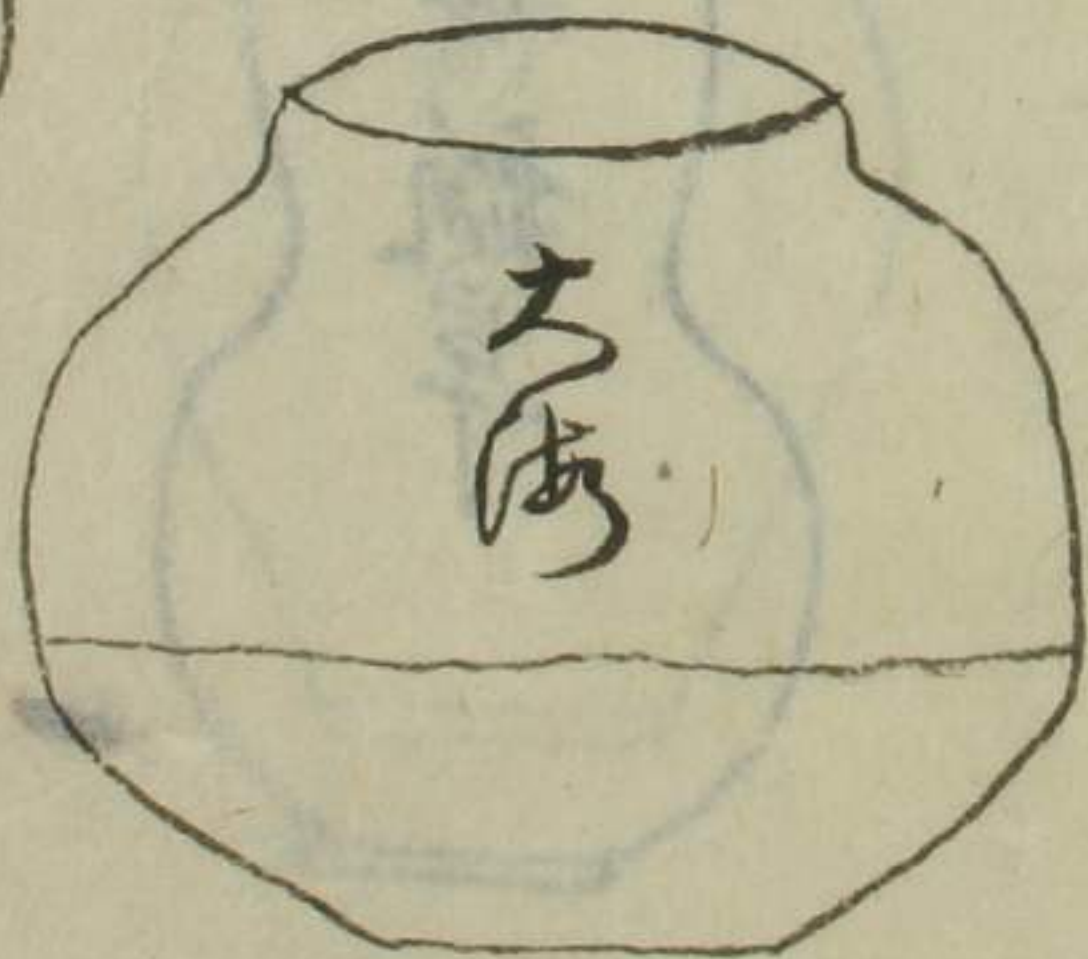
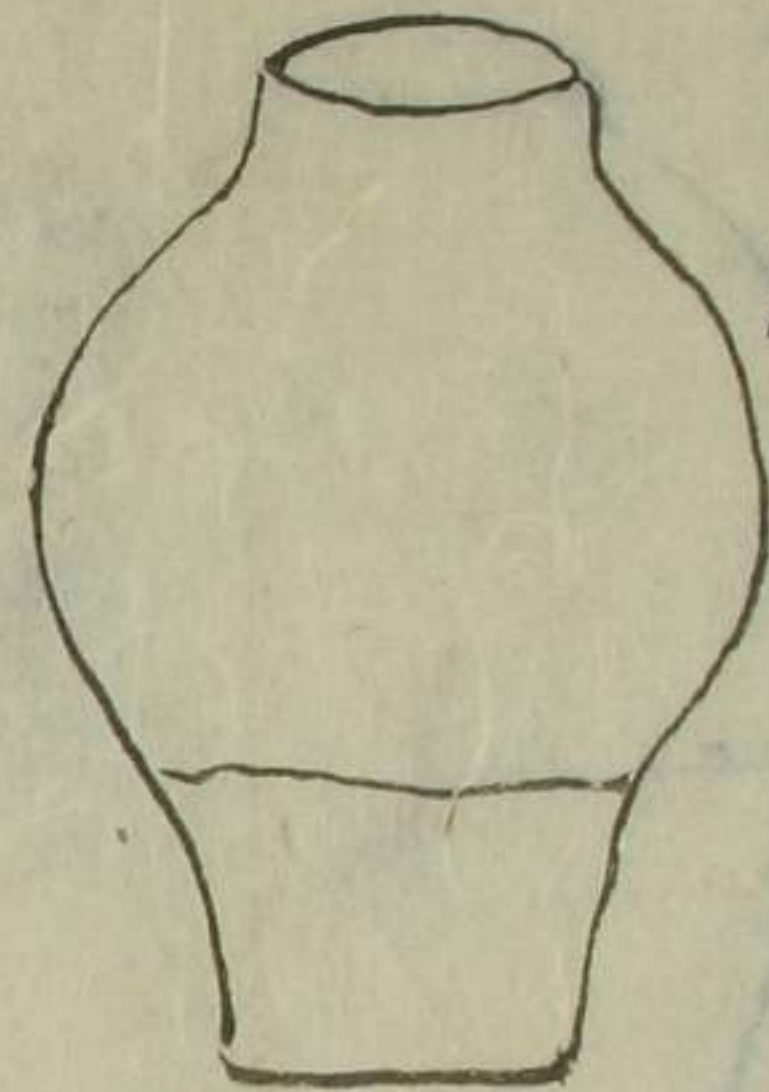


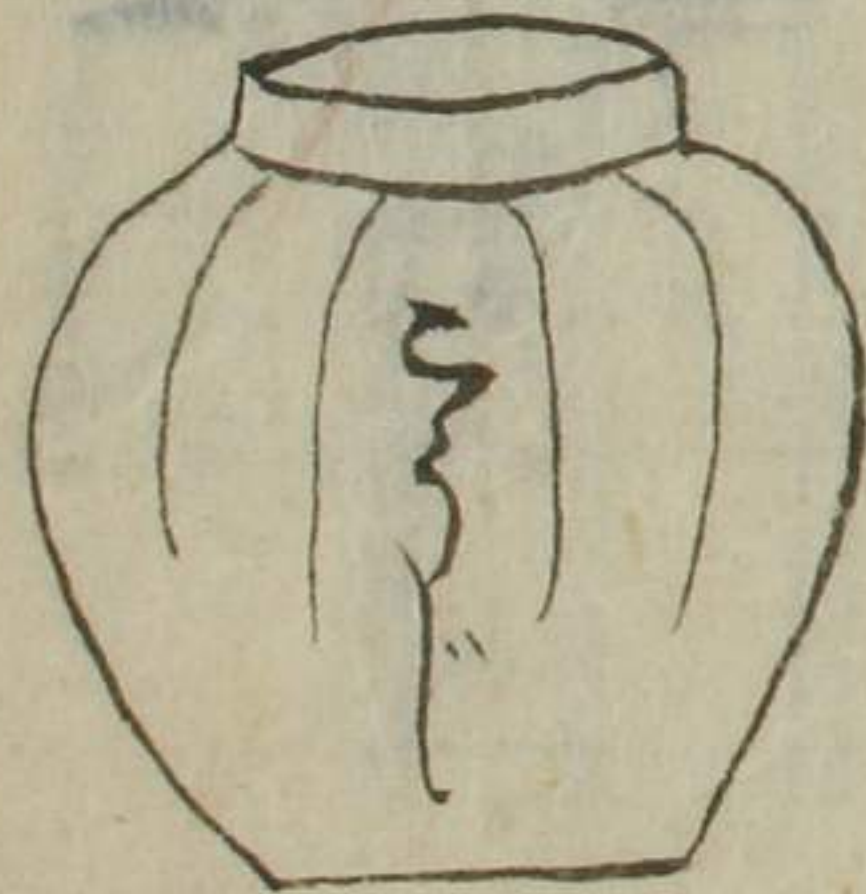
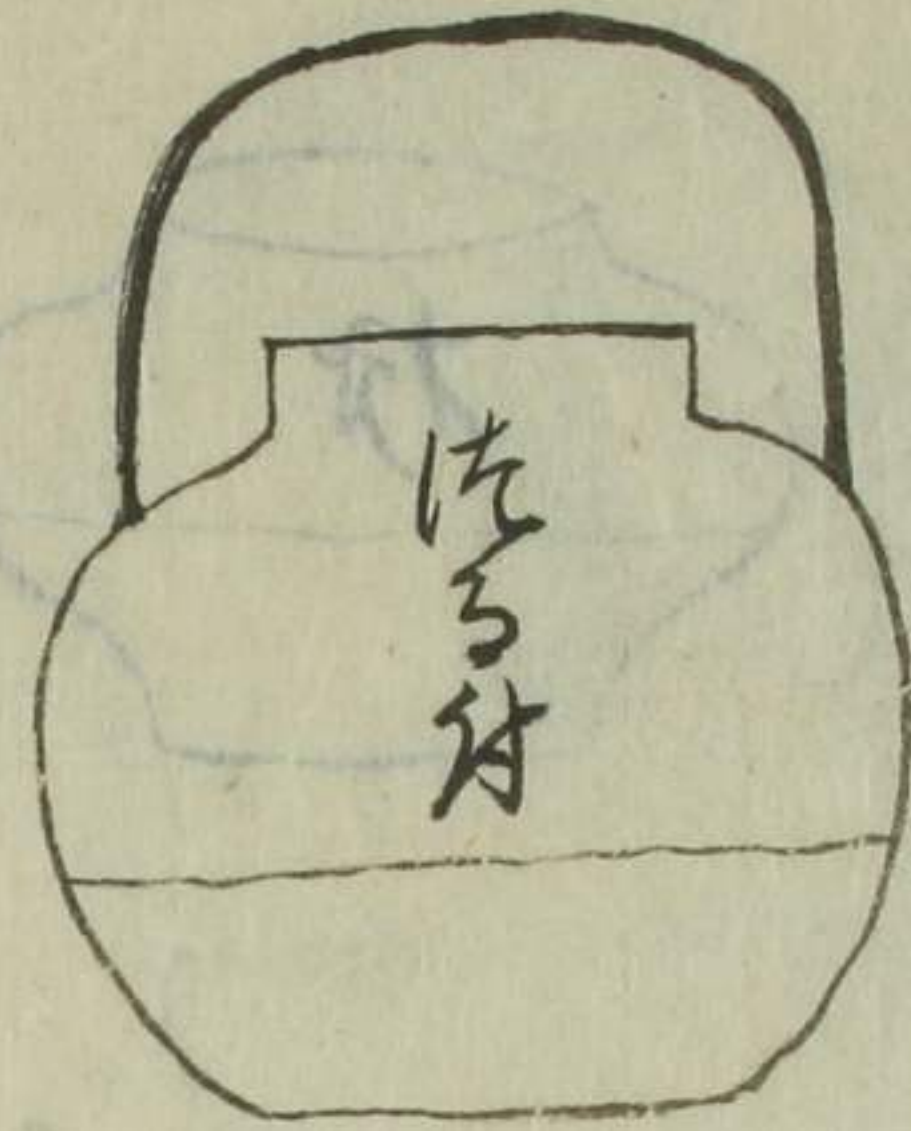
上
九十四番の壺



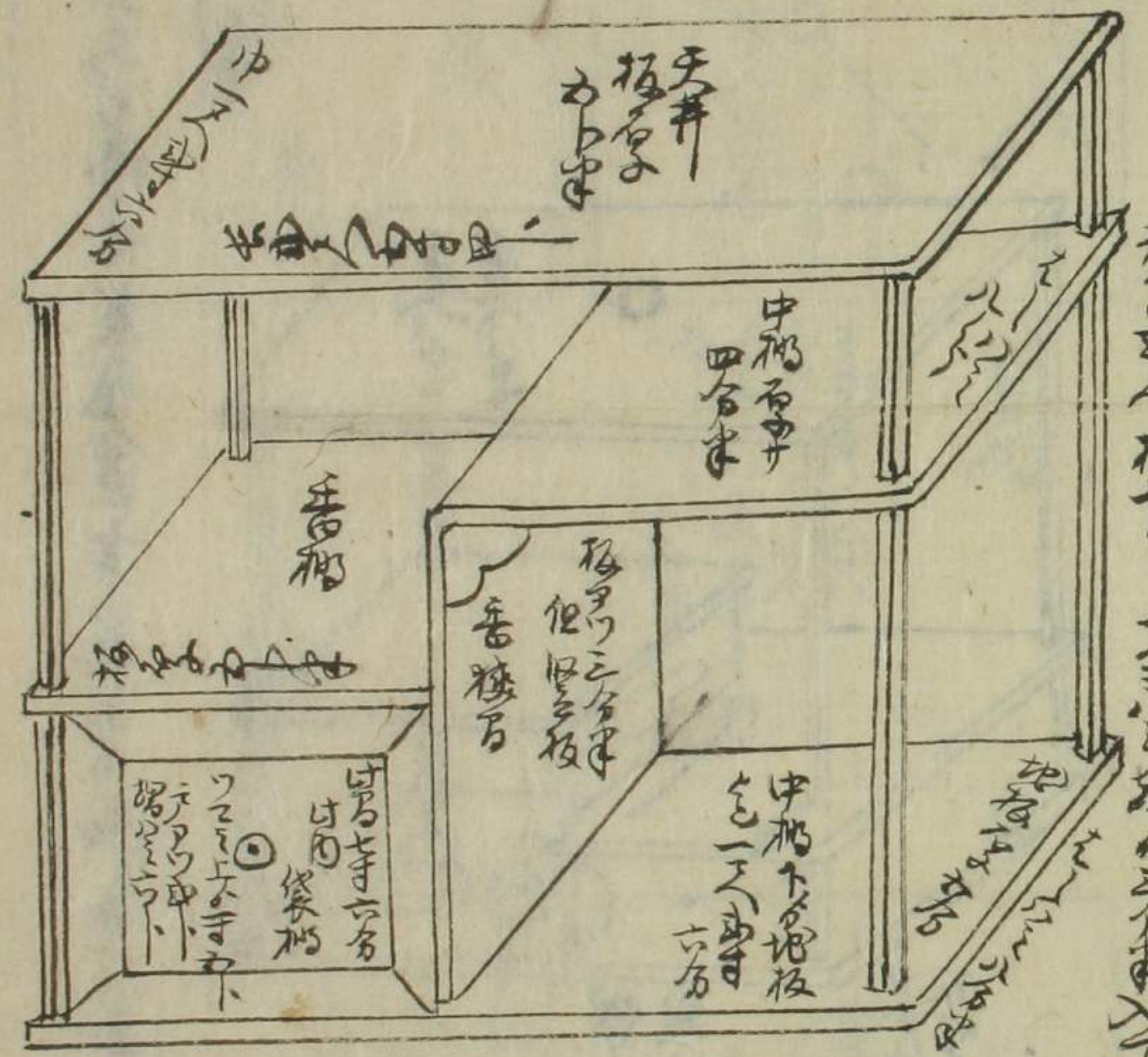
文







日由八
 伝馬
 伝長



此の如く花をさしおこし置くに方申して花と云

中

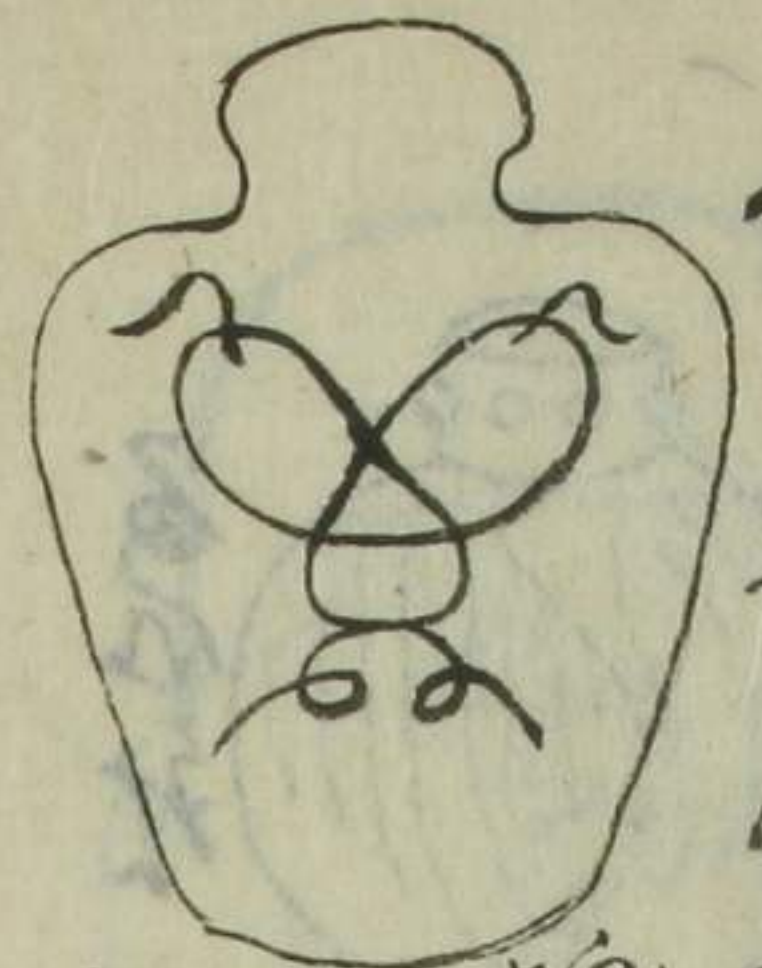
中箱九

多浪中箱の景

回

四十九

素の乳花は花



乳花は花にあまひや
 上より下りたり
 ぢの形よりちり
 上はまゝあまひの
 やはあまひの
 上より下りたり

口花の五花は花
 花の形は花の
 花の形は花の
 花の形は花の
 花の形は花の

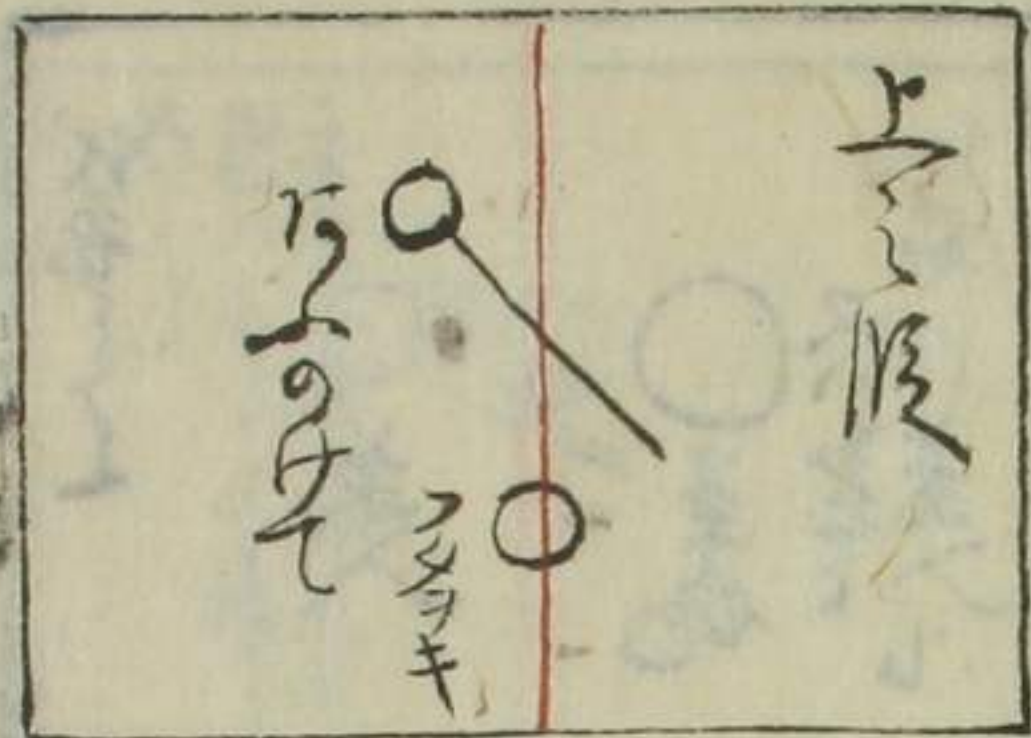




上三後

代名

日

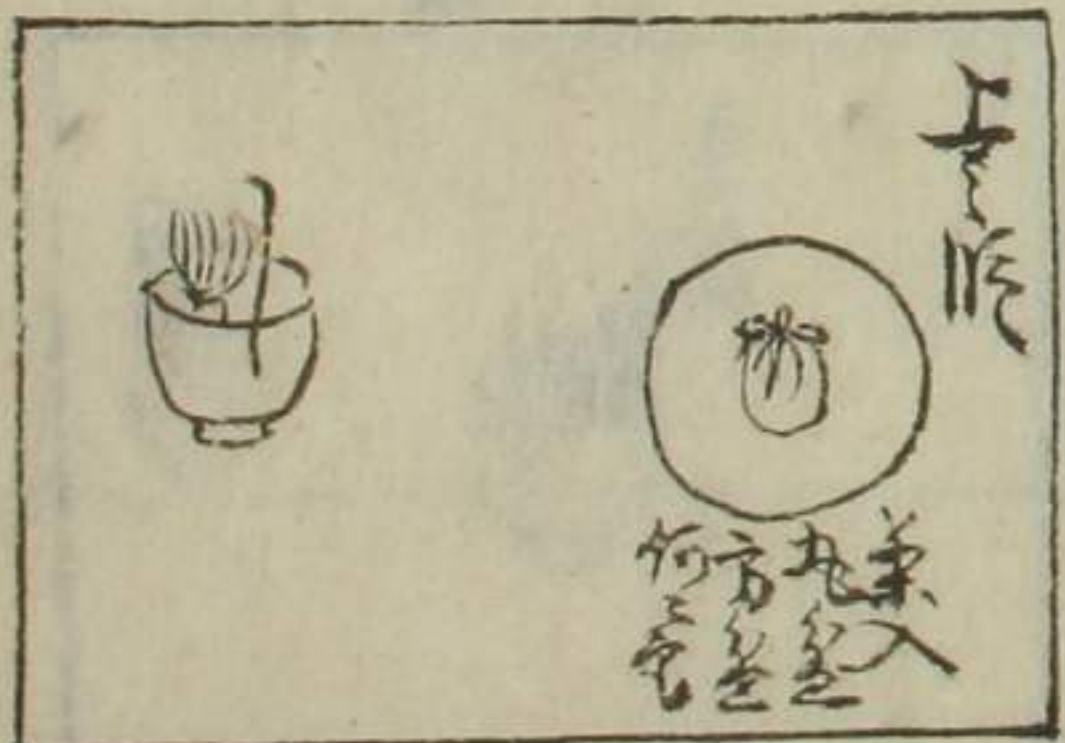


上三後

代名

日

音好ク声
又ハ音好ク声
又ハ音好ク声
又ハ音好ク声



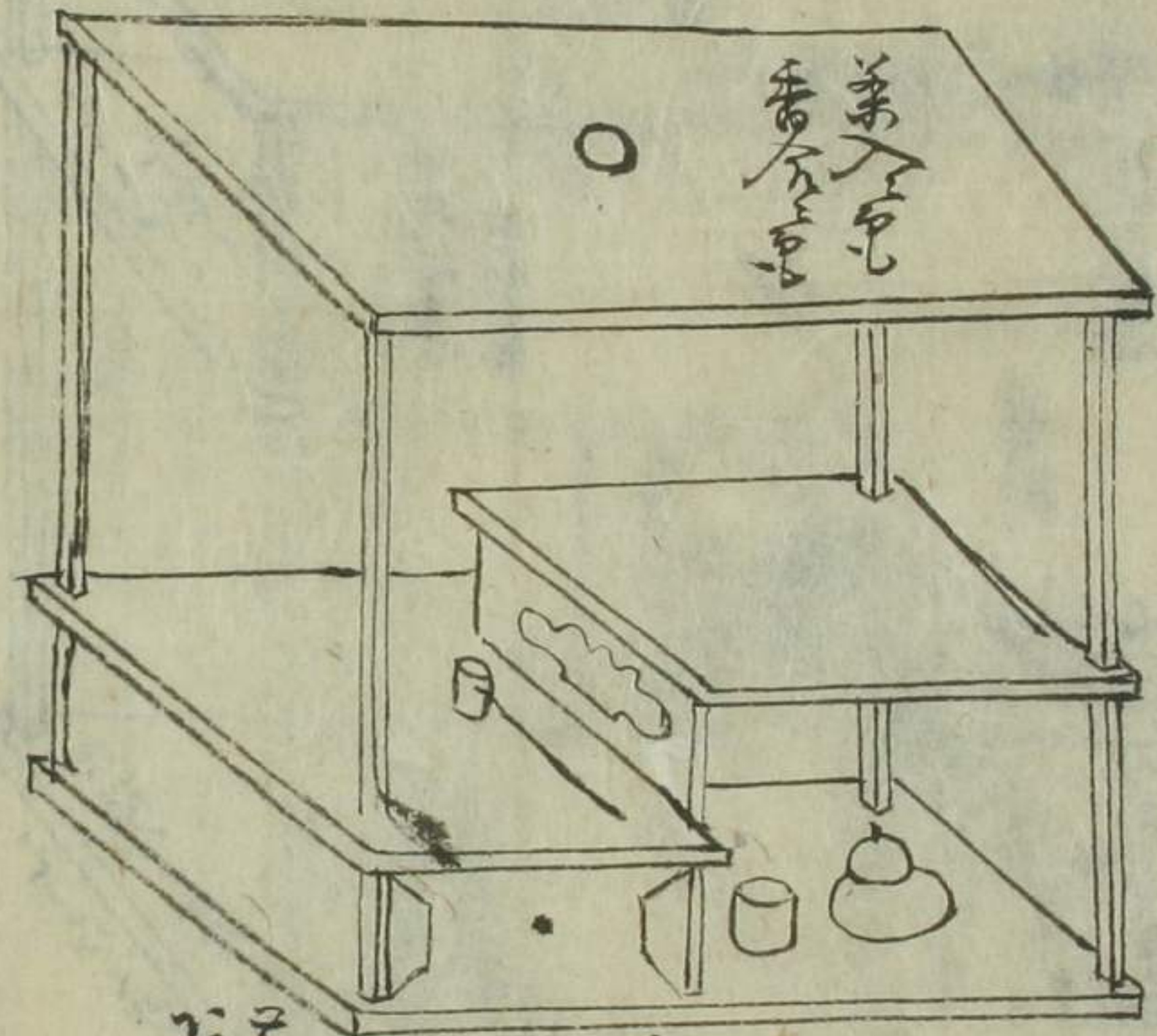
上三後

花入
音好ク声
又ハ音好ク声



音好ク声
又ハ音好ク声

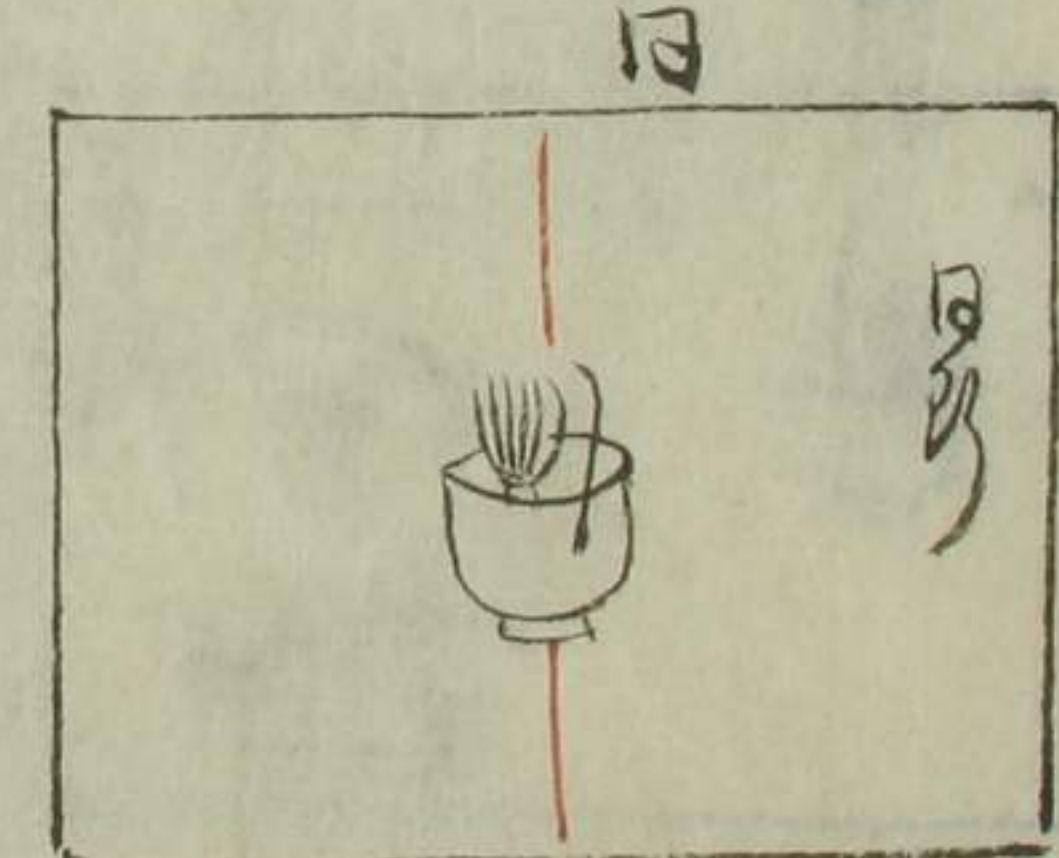
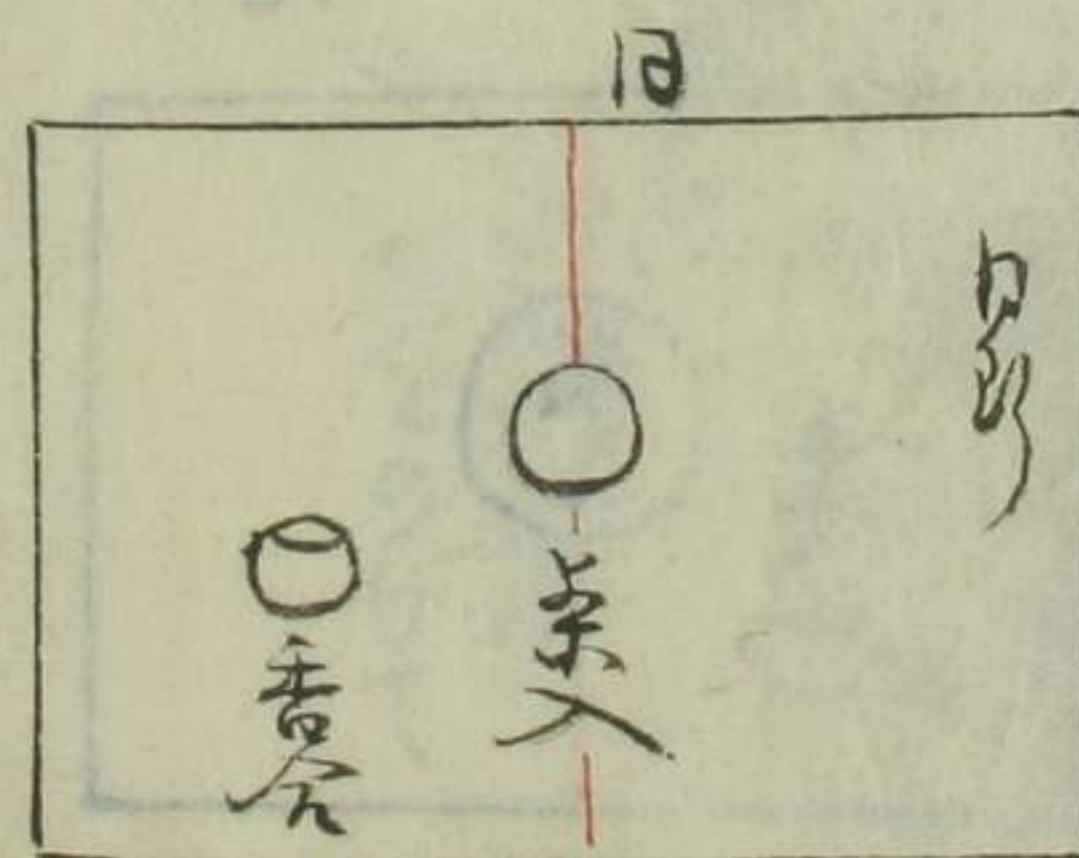
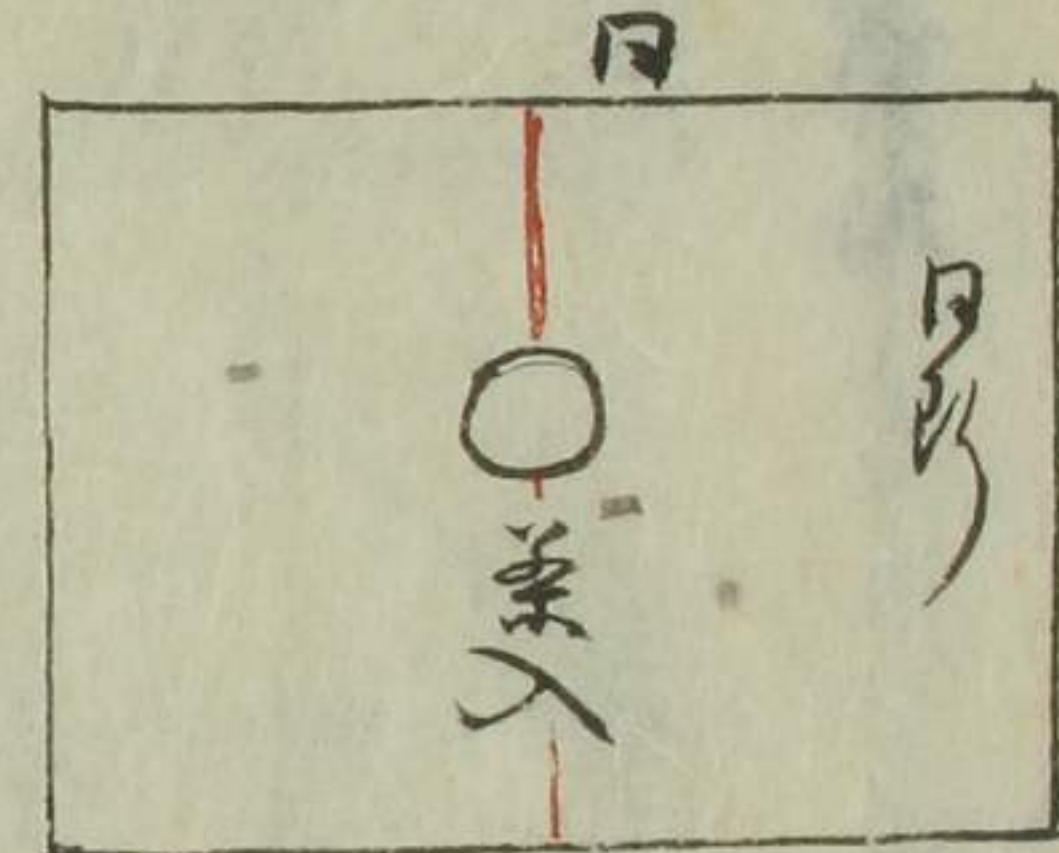
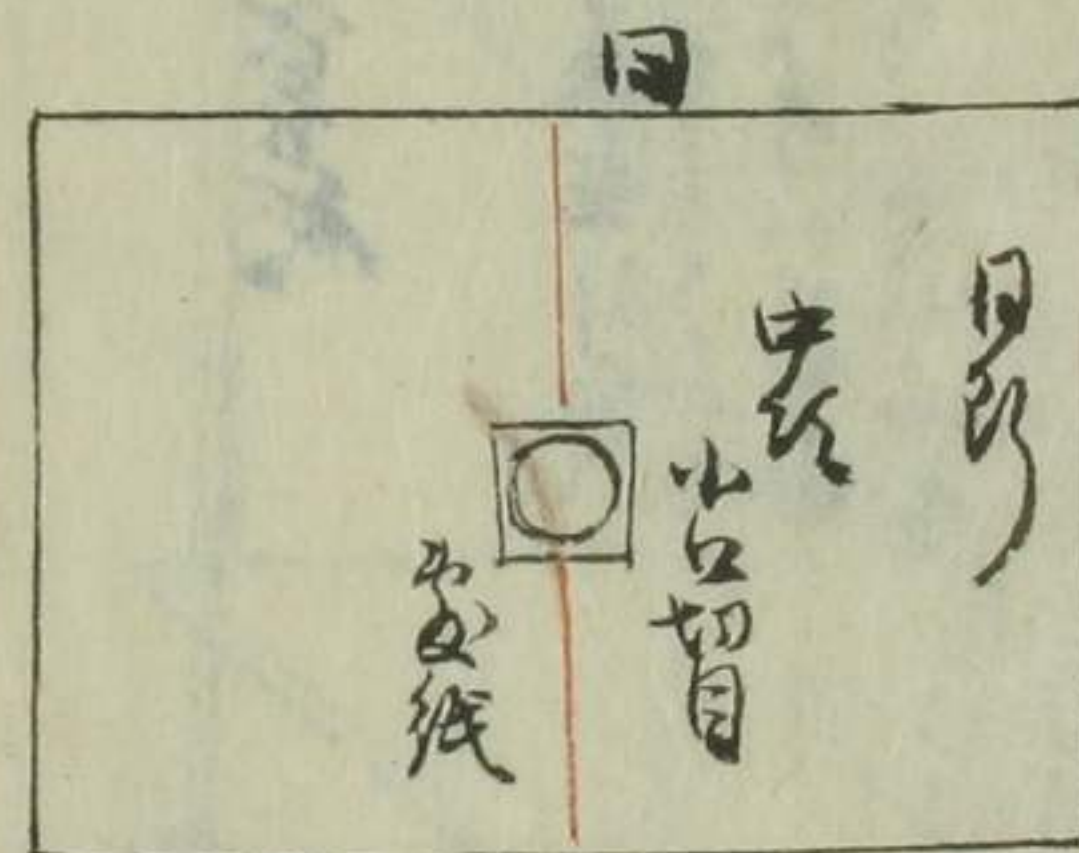
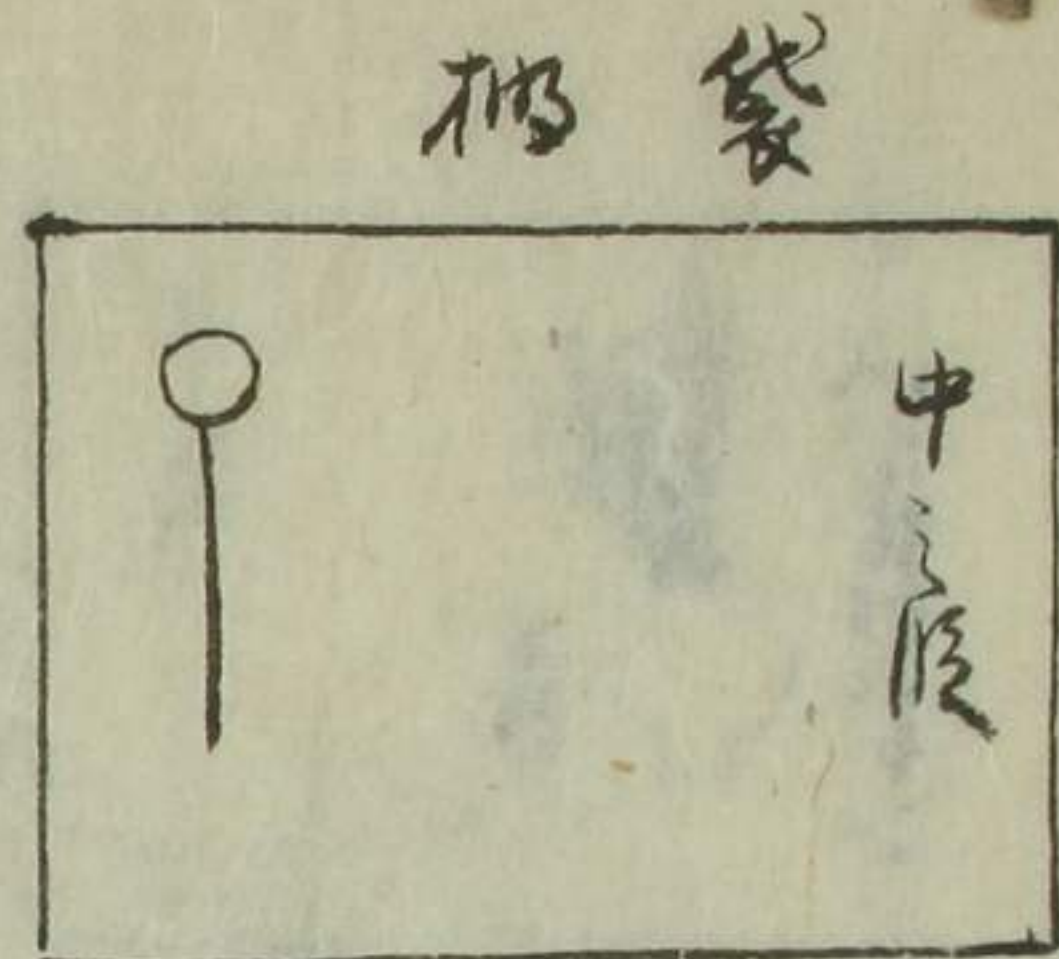
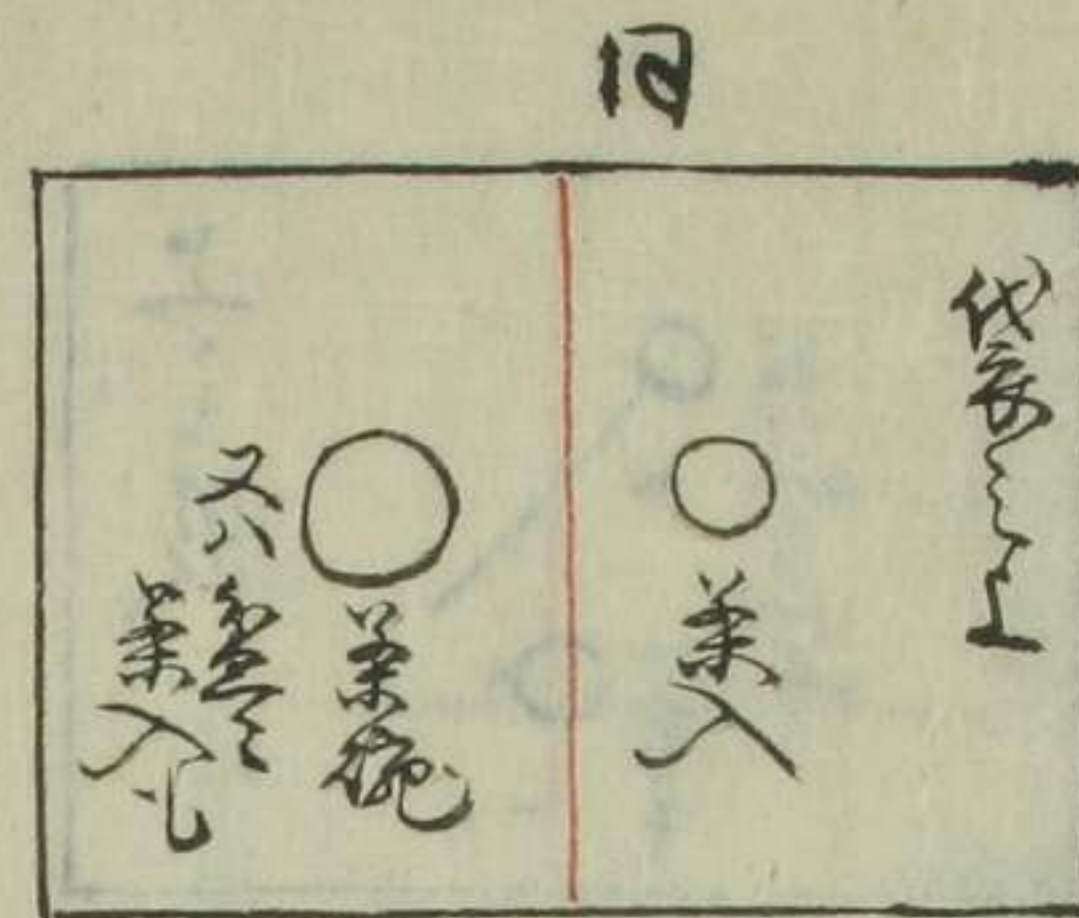
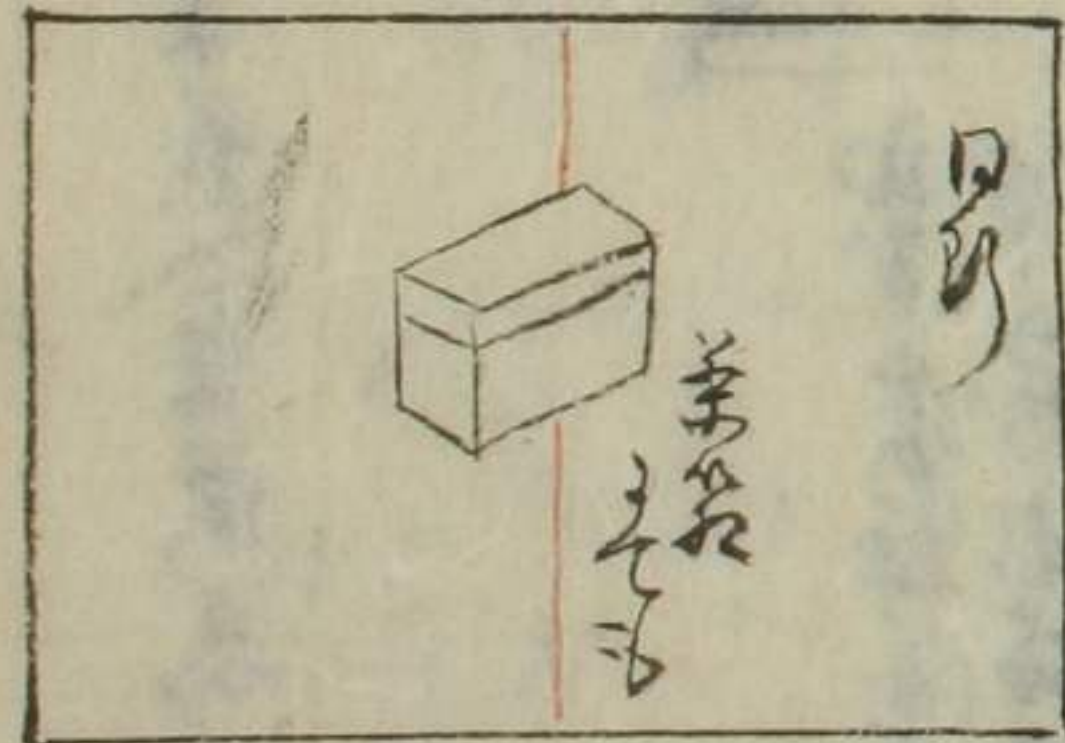
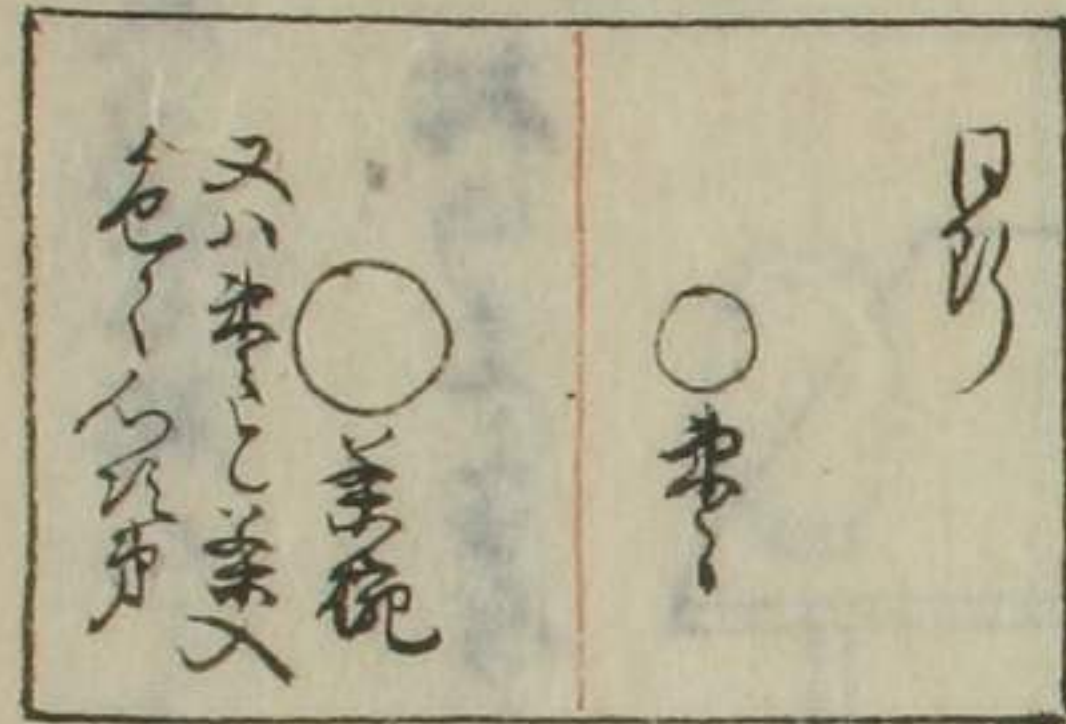
音好ク声
又ハ音好ク声
又ハ音好ク声
又ハ音好ク声



音好ク声
又ハ音好ク声

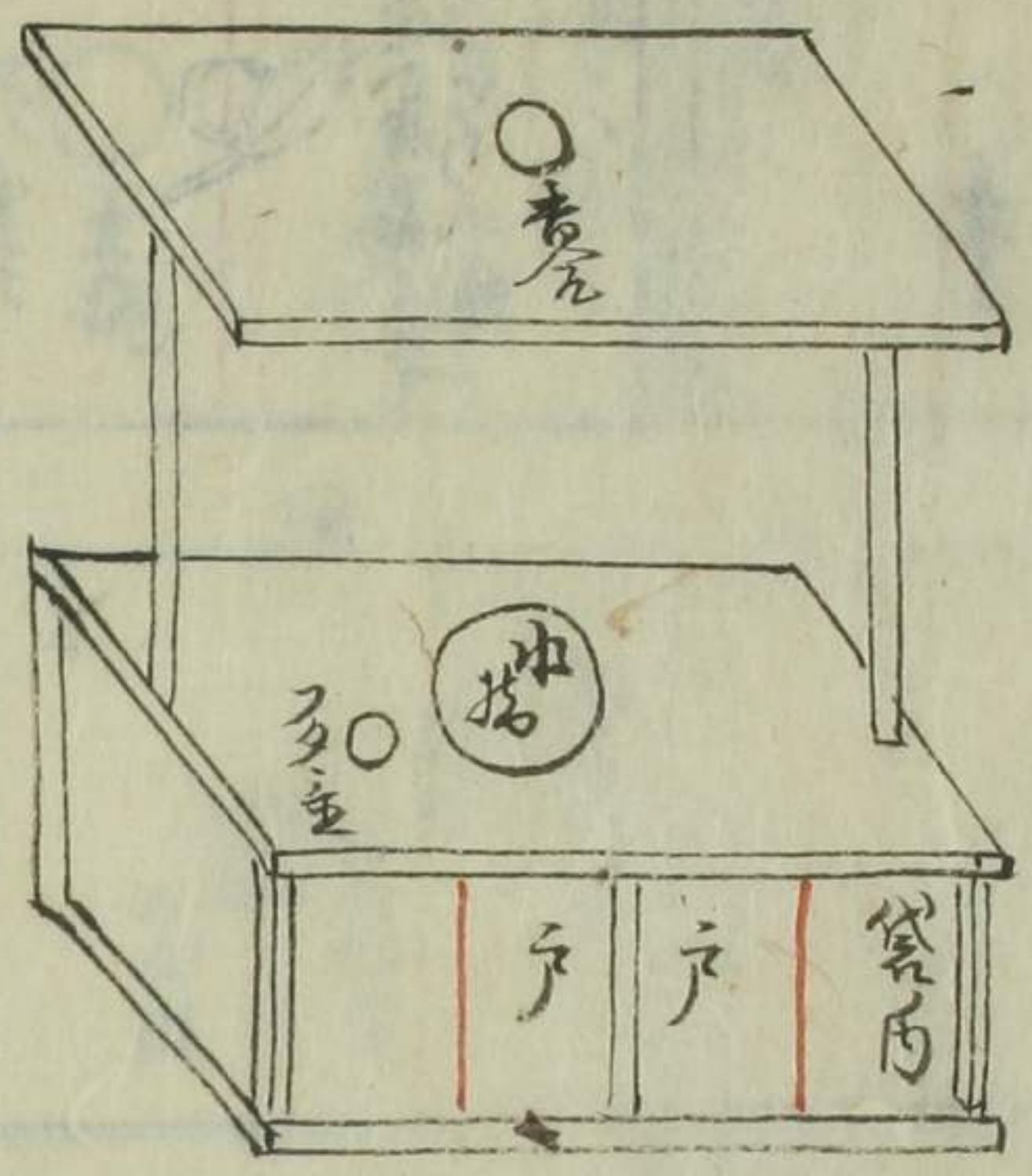
音好ク声
又ハ音好ク声

音好ク声
又ハ音好ク声



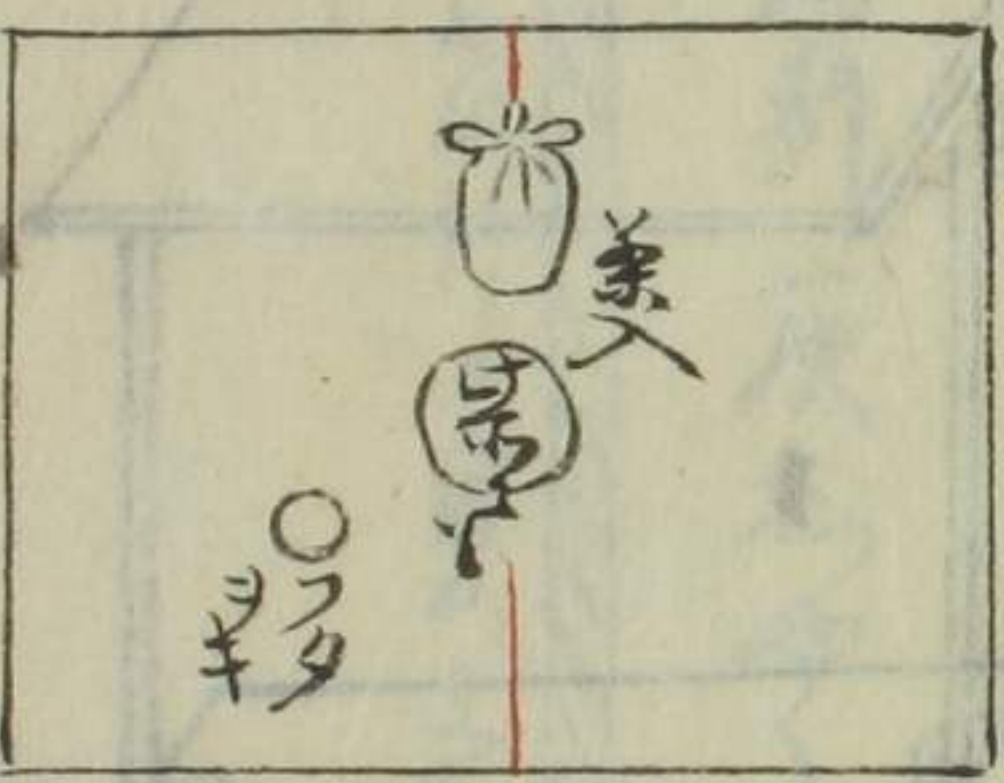
布武の袋棚と云ふものなり。此は茶入を茶室の間に

棚の上を茶室の間に



此茶入の押をての袋内
 箱の内水指の間に
 置付戸をのけて申出
 と云ふ事なり

布武袋上



呂袋



左木の如きい
 何れも戸をのけて
 申出申すは

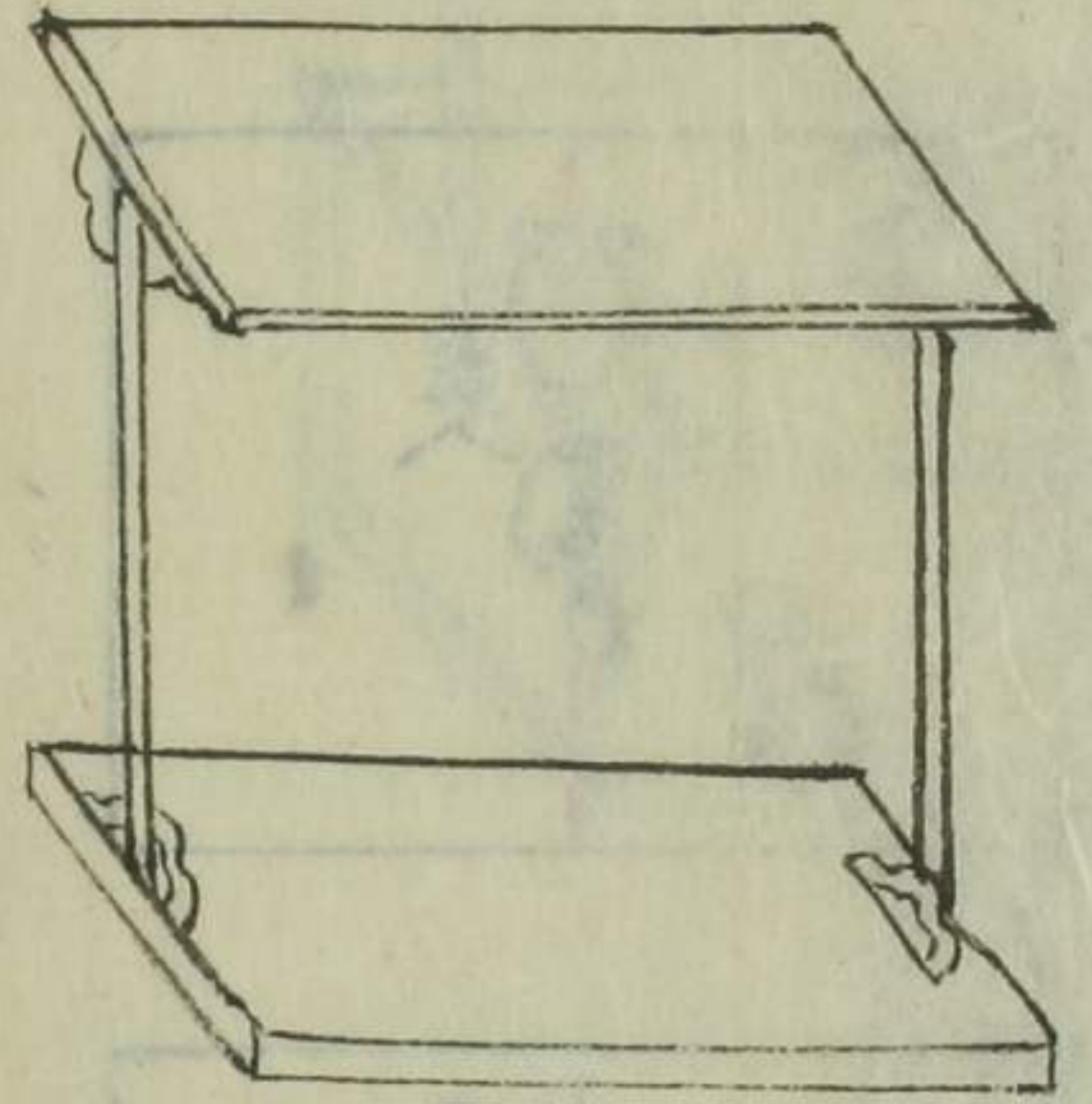


中
辛一

及至柳下
之り

日
辛七

水垢

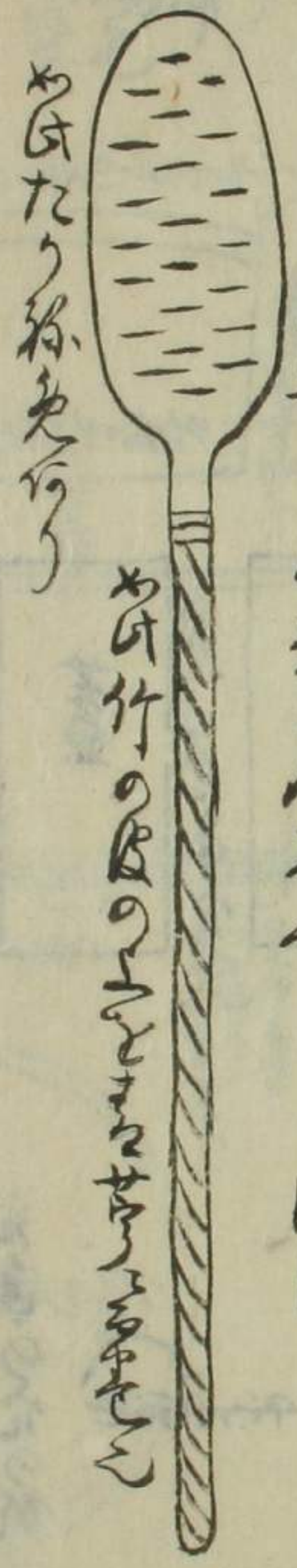


茶碗	○	○	美入

茶	刀	茶	合

日
辛一

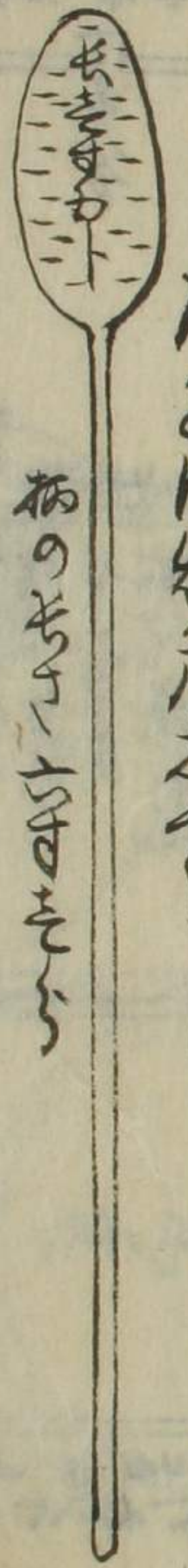
及至并石列一灰志也



也付たう縁也

也付竹の

及至風好一灰志也

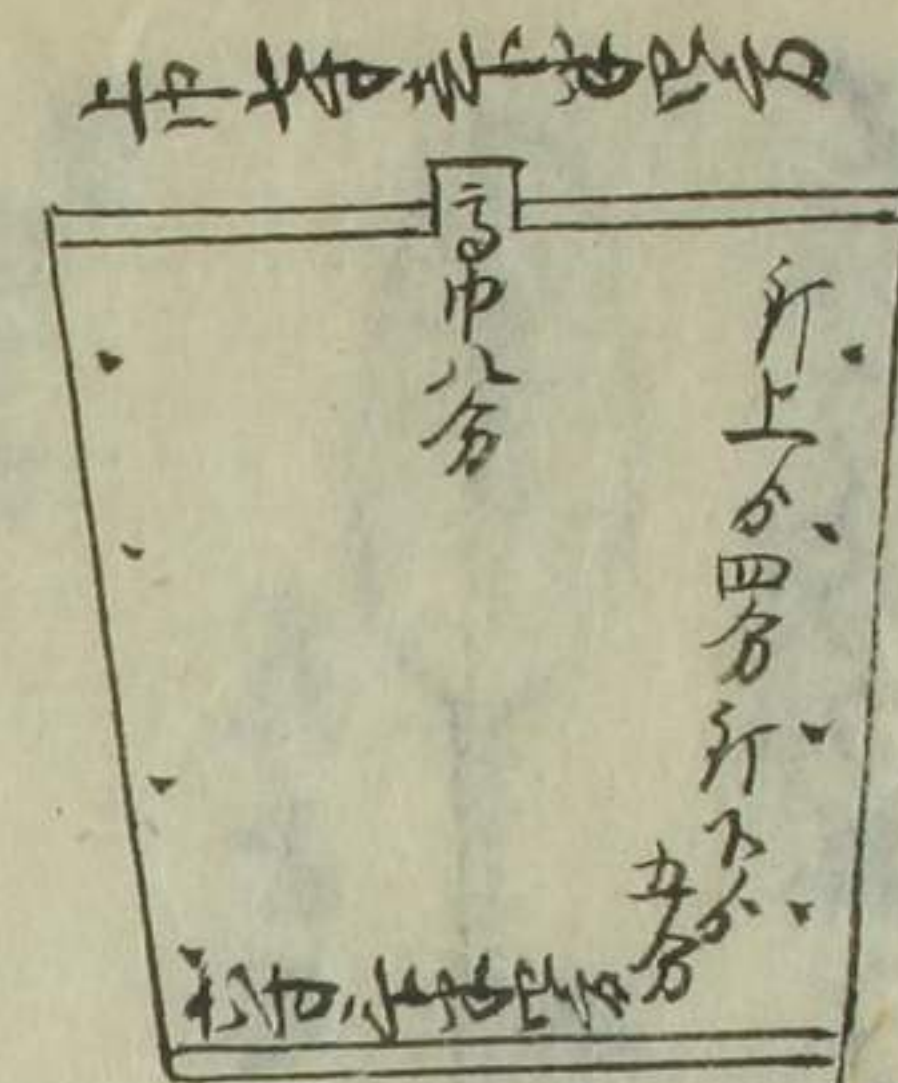


柄の

あはうらう縁を打のへうそ柄もあうはり末をく
はり色はもめをえう縁をを修用也

中ノ九千二

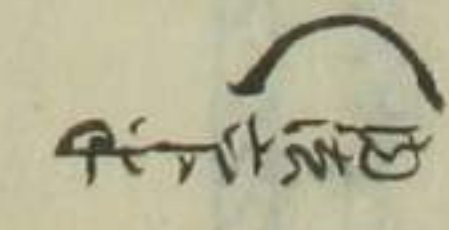
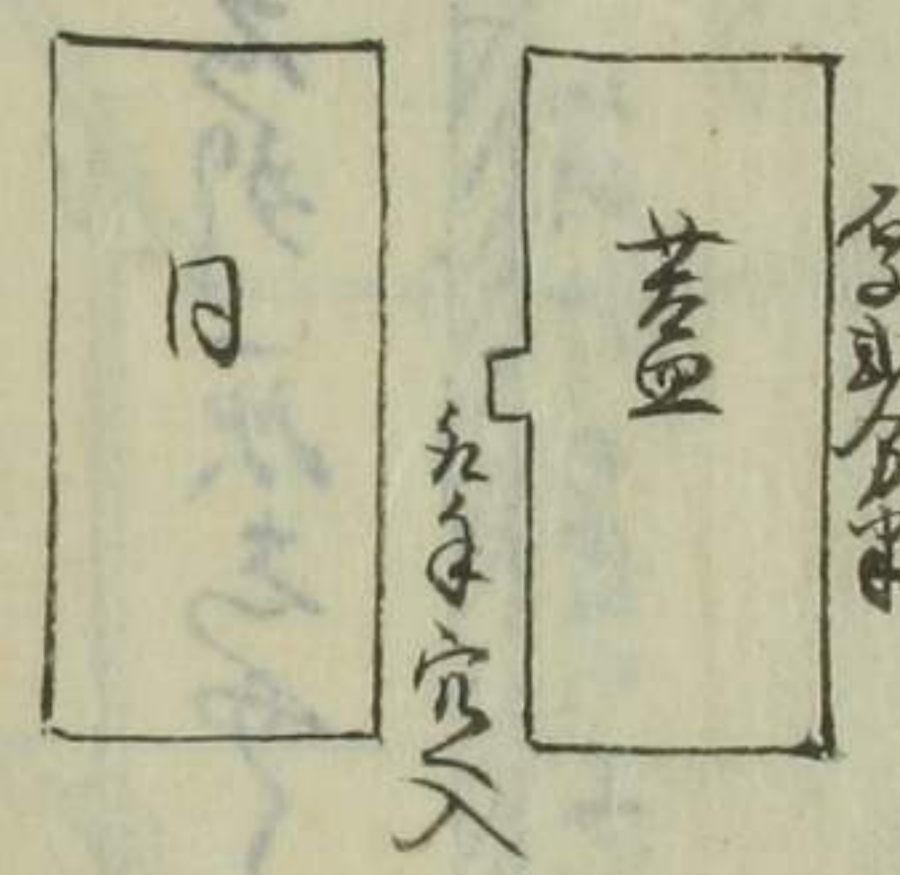
利休御籠、糸栲之栢目、尤坐自、幸也但、新走、
と、り、丸



高、中、下、ノ、方、法、
但、甚、重、丸、子、
扱、板、底、板、丸、
厚、三、分、半、
行、心、段、行、也

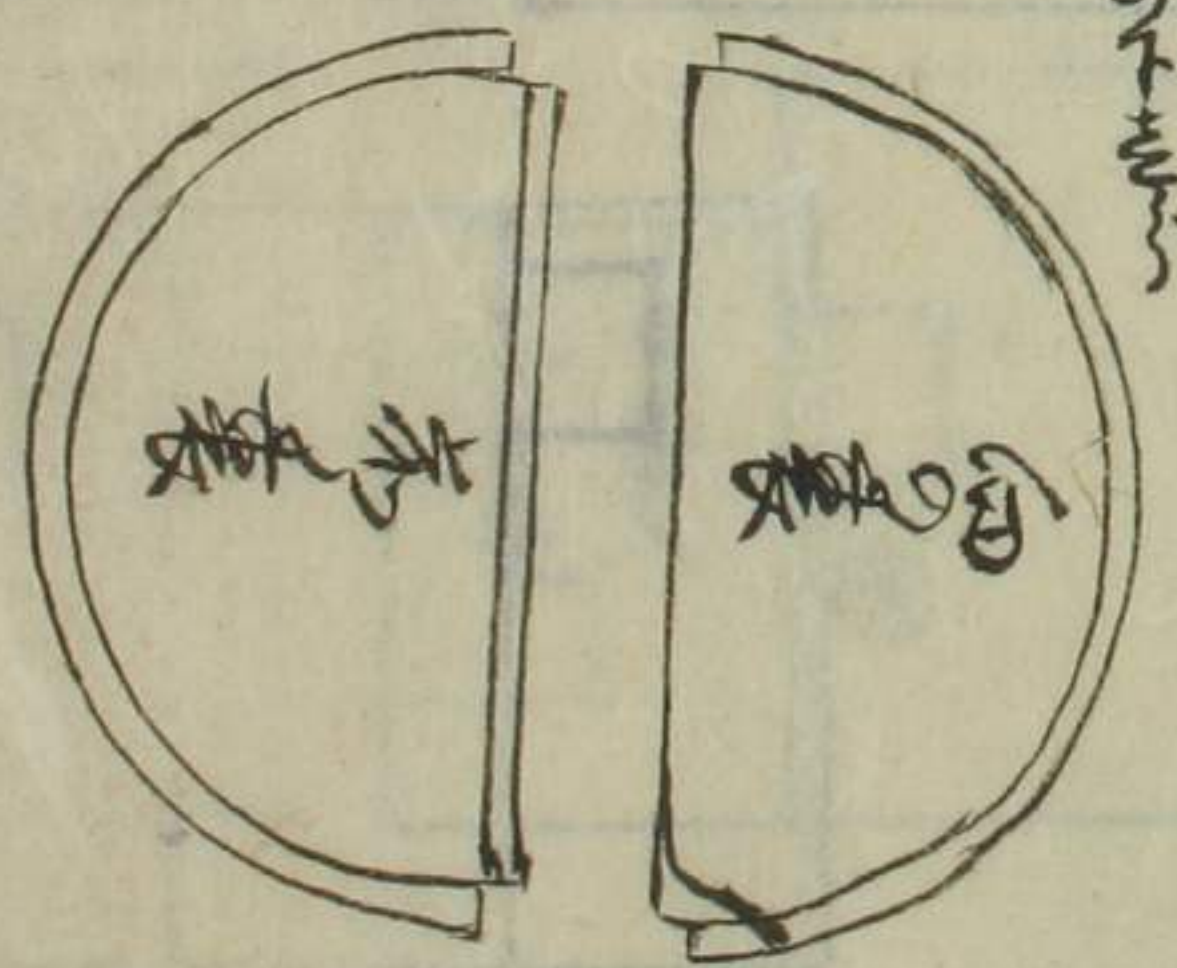
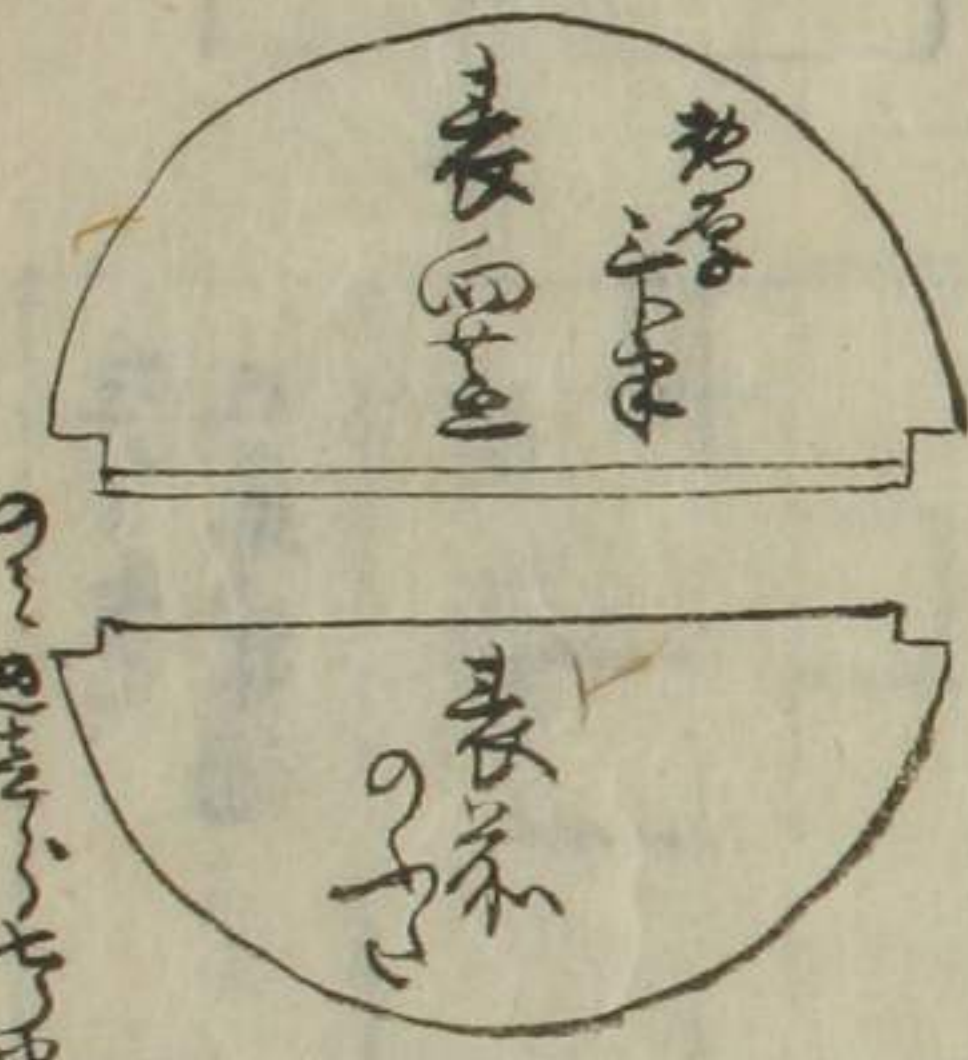
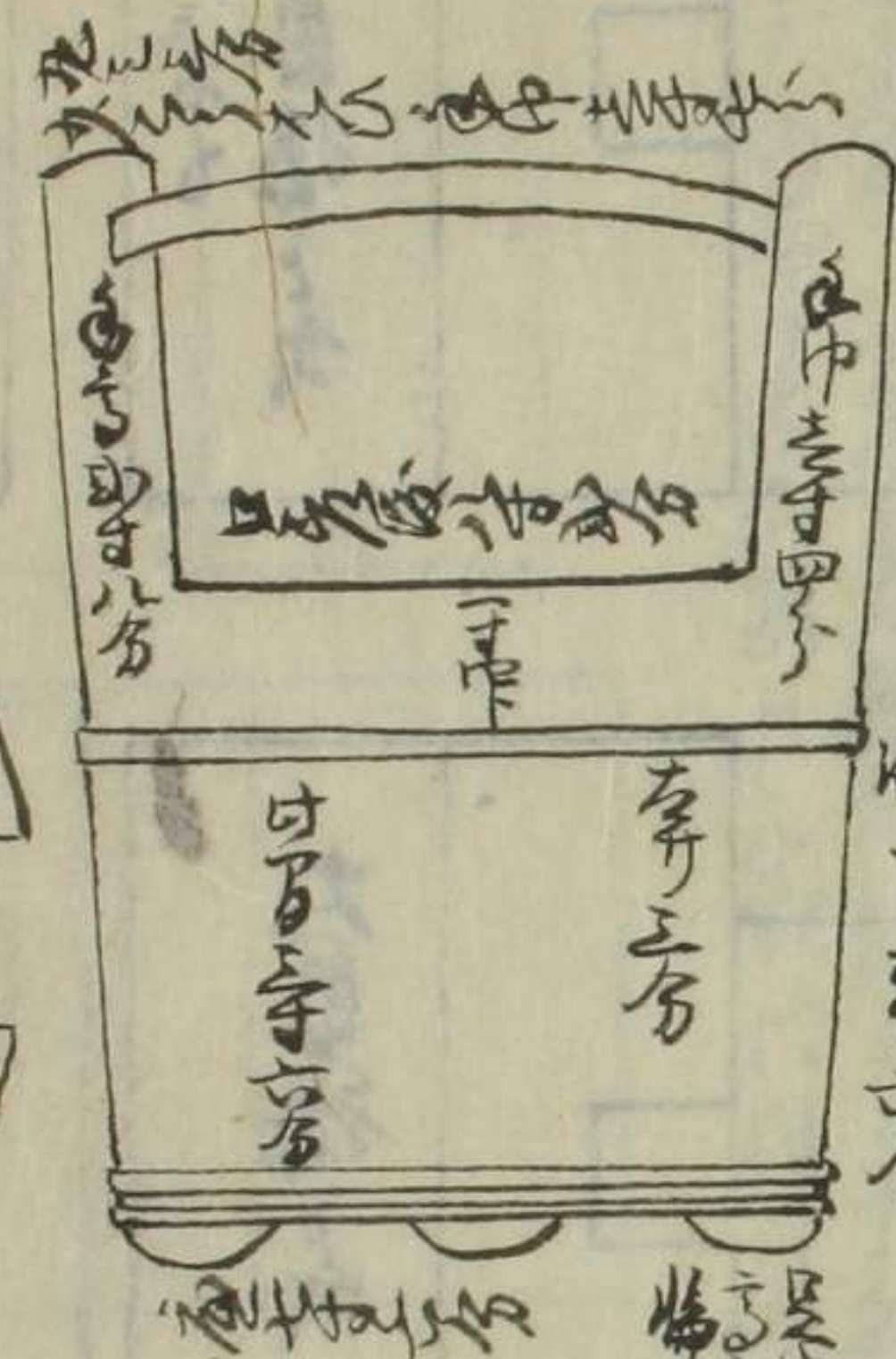


丸ノ底ノ形

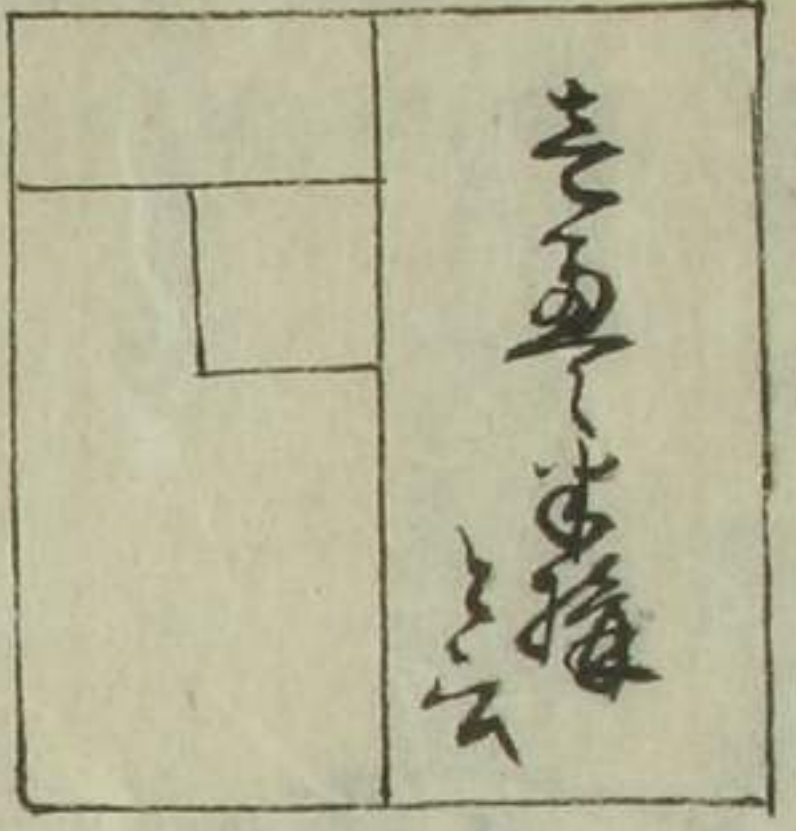


日九千三

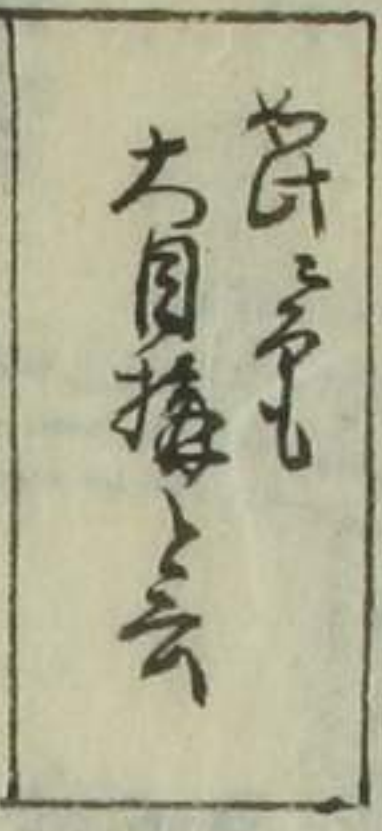
真、
手、
外、
内、
花、
十、
り



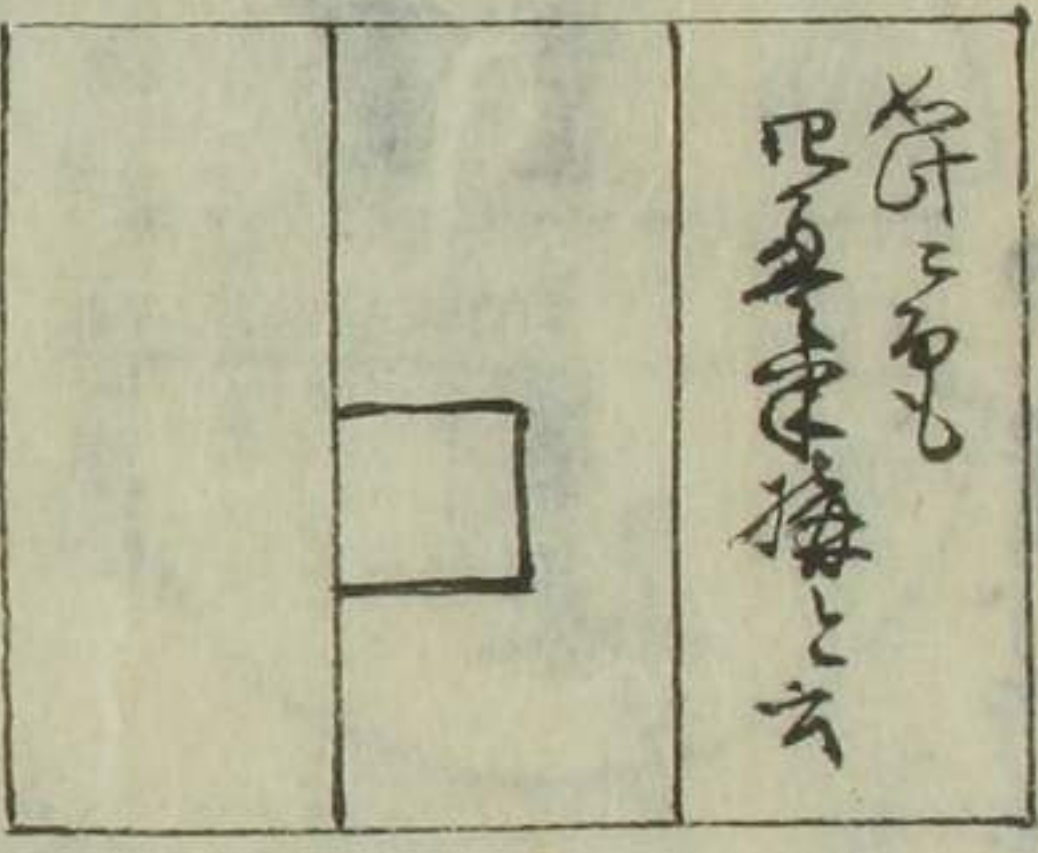
下ノ水



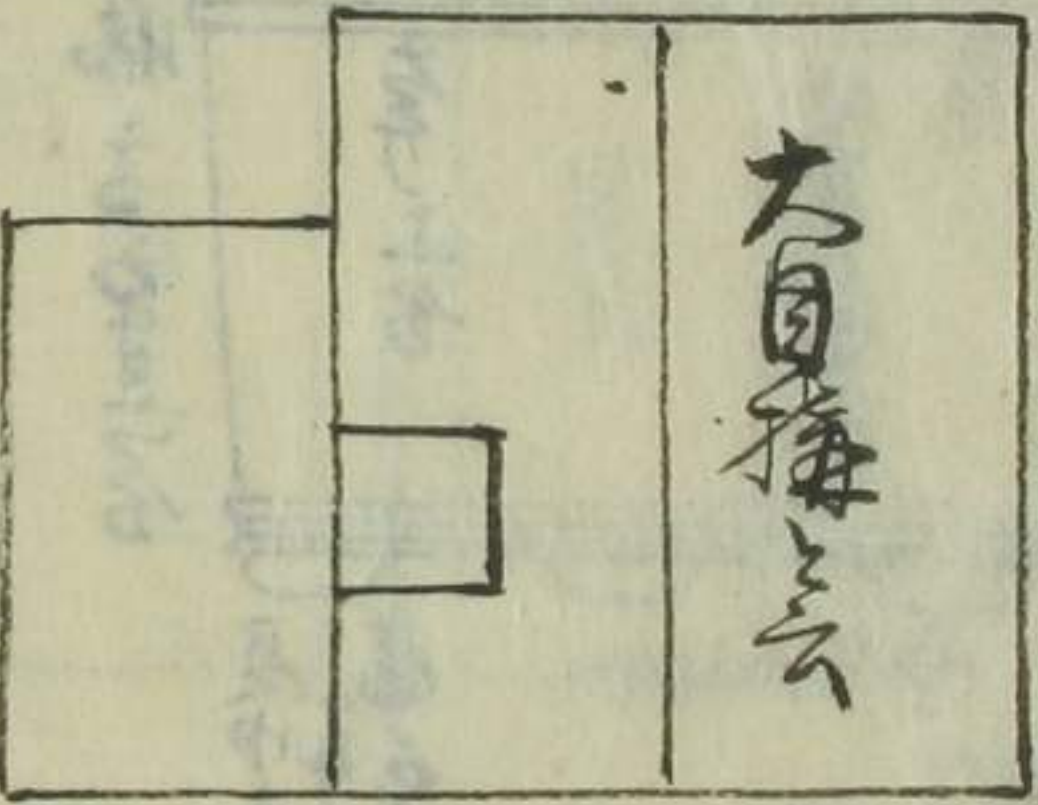
水
入
入
入



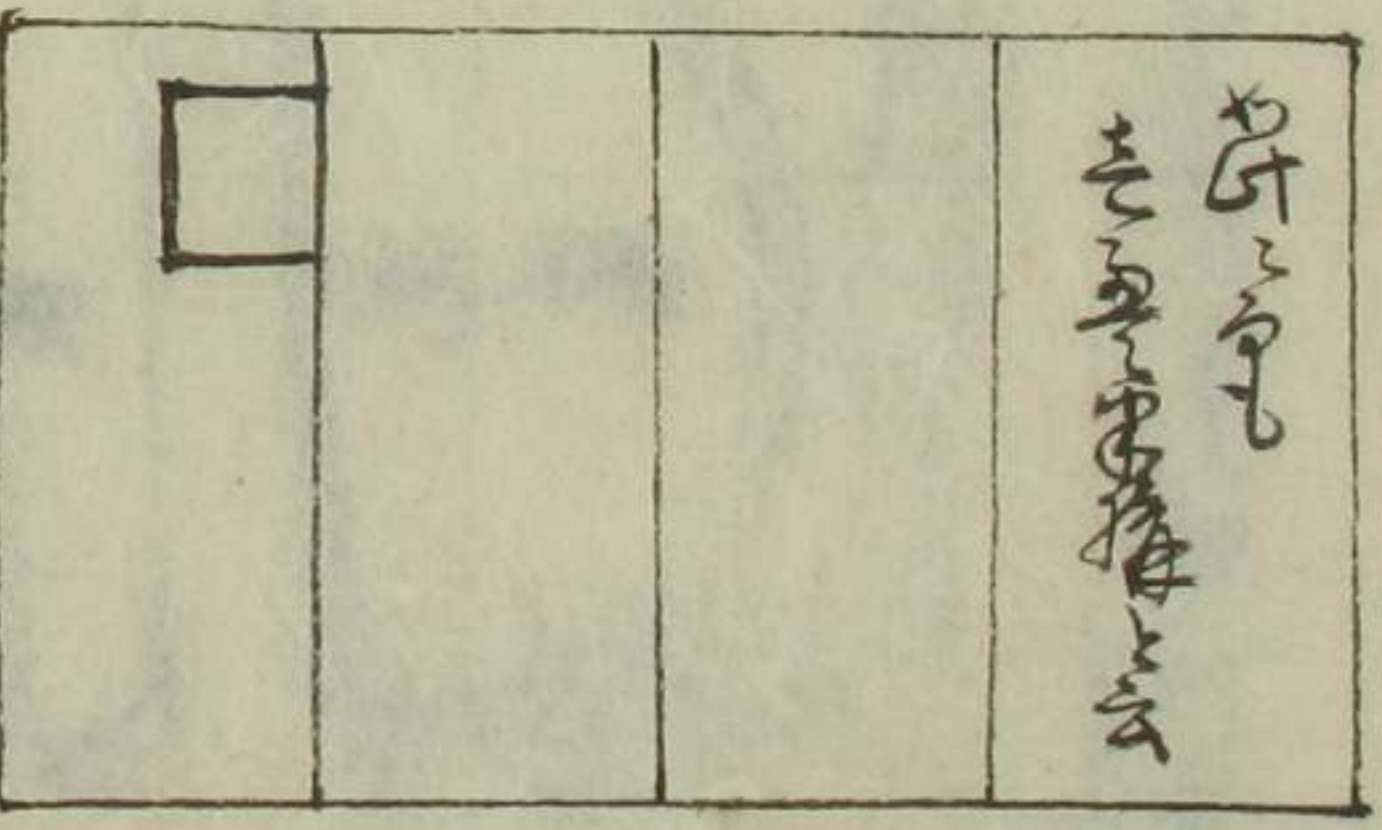
水
入
入
入



水
入
入
入



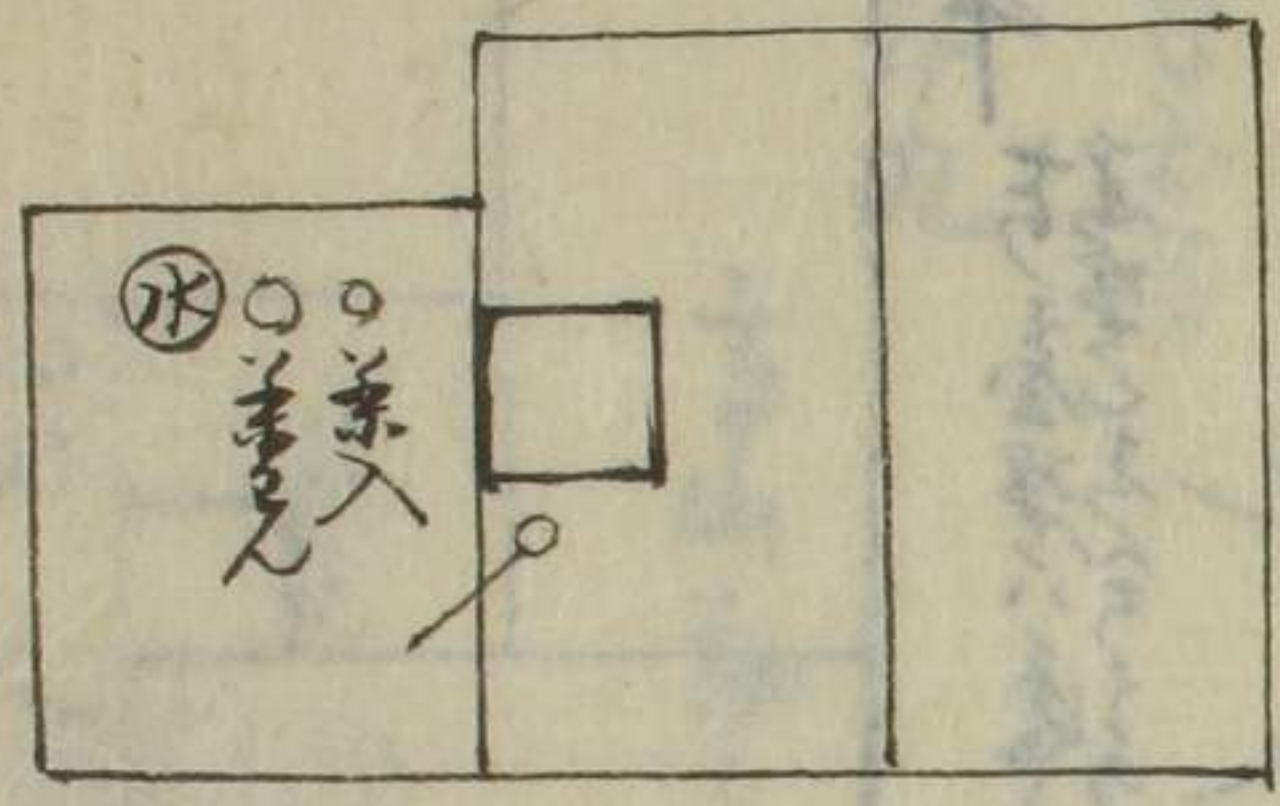
水
入
入
入



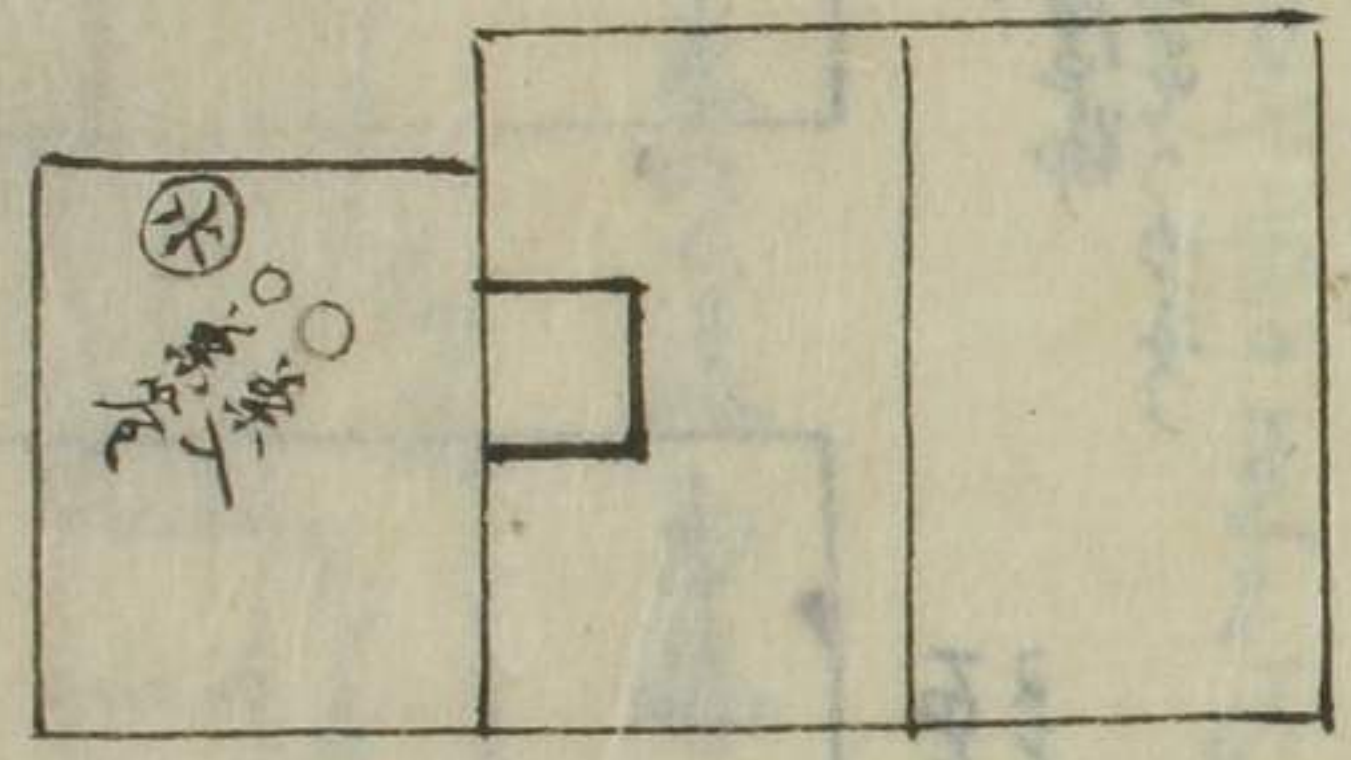
水
入
入
入

目四十六

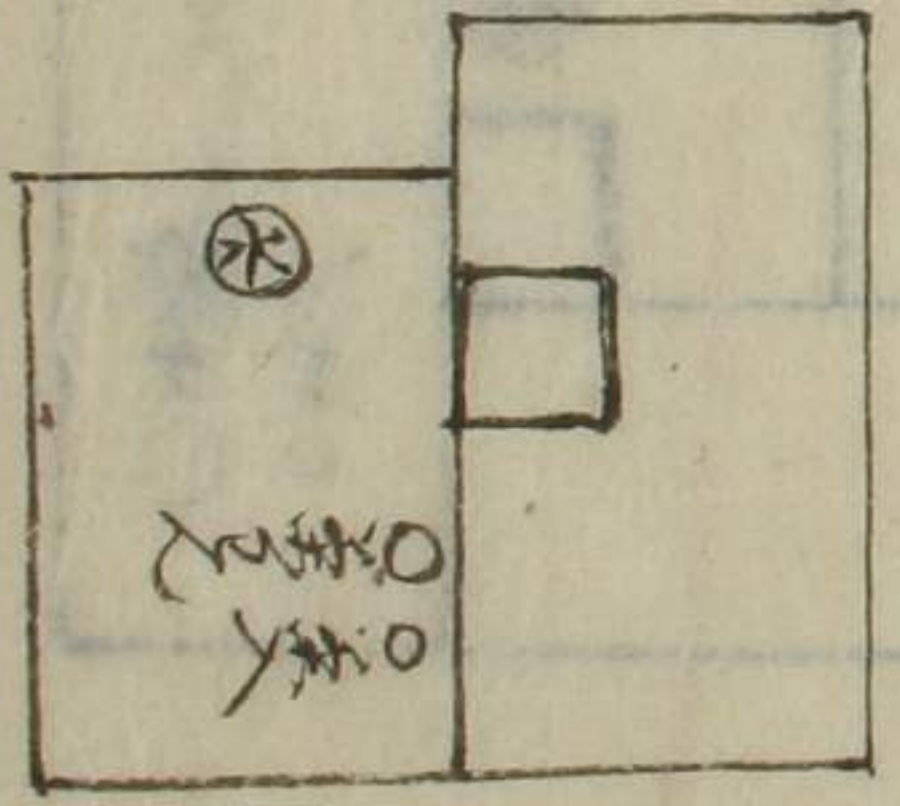
水
入
入
入



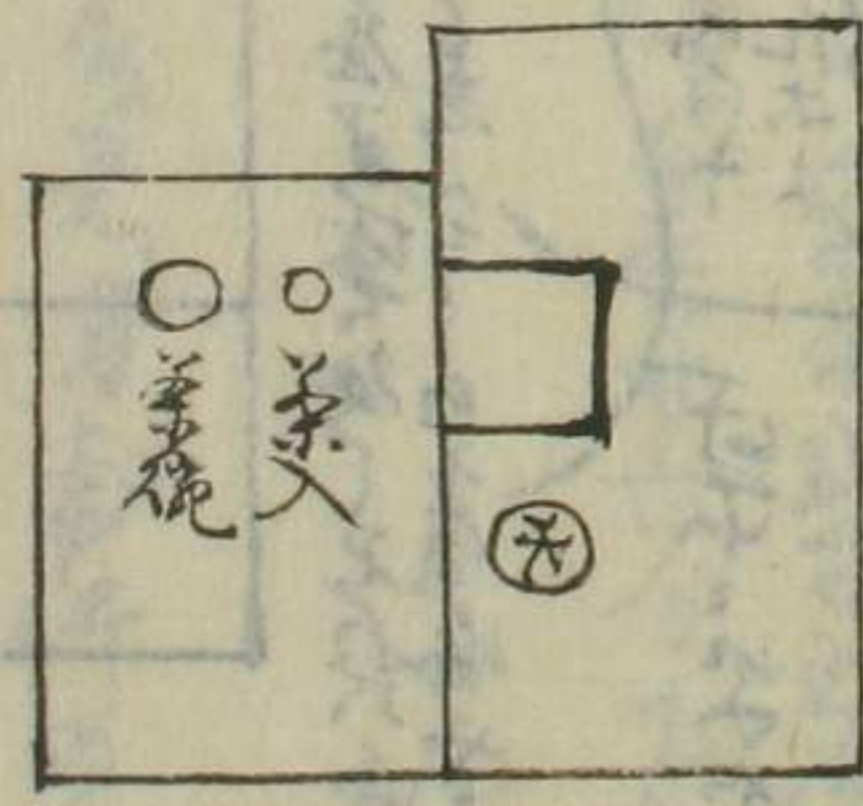
水
入
入
入



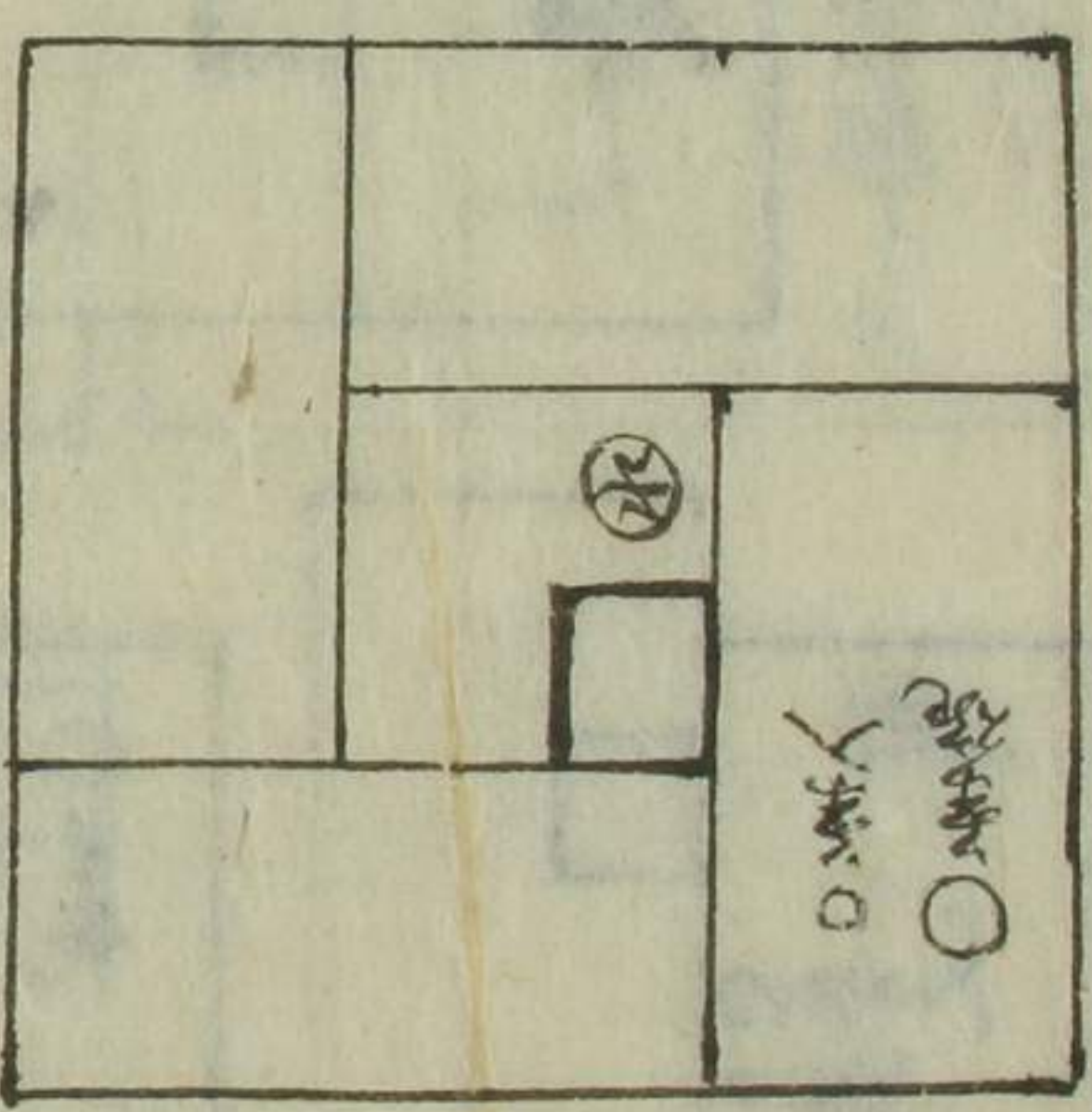
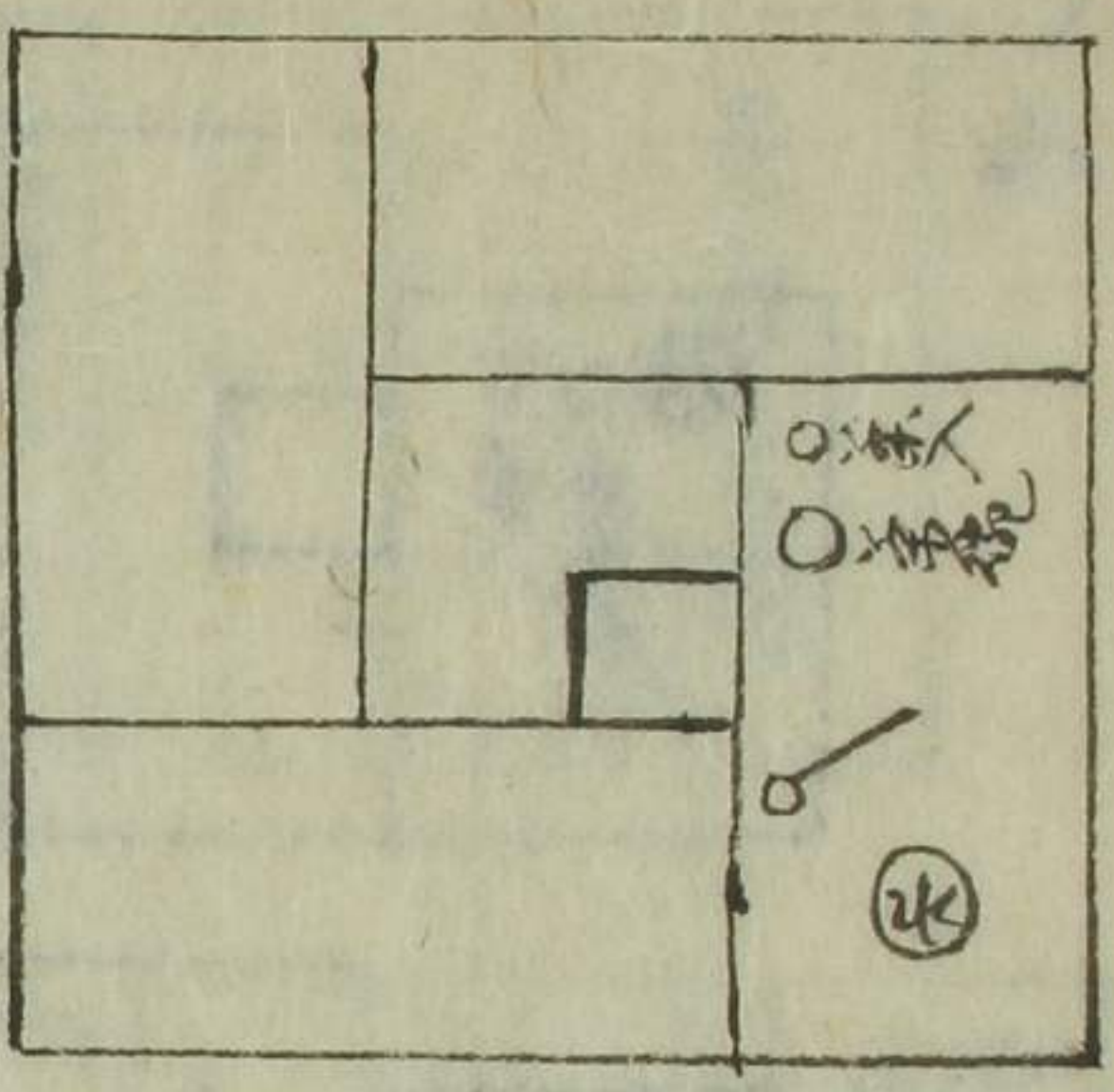
水
入
入
入



水
入
入
入



水
入
入
入

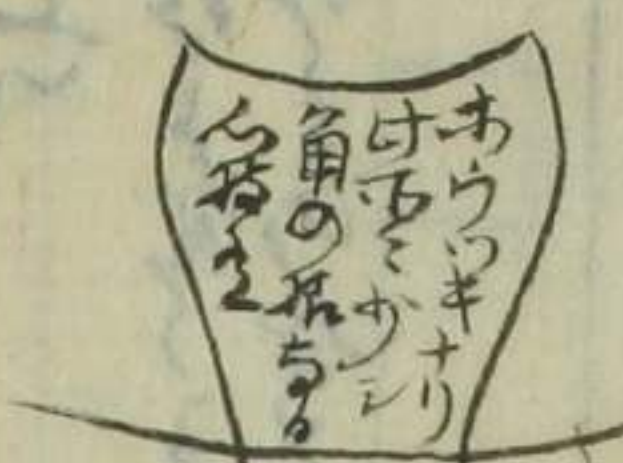


↑ノ六千

上り五層建の透し
馬場を走らうの馬場備

やまうめまう

下り五層建馬場備
又上り五層建の馬場備



けりある一文字ま



けりある一文字ま

上をすはた概に... 考すすむむ方。内わつ子いそま
さすむ方。足のと七方。そののた後むすむむは。は。わ
つ子いむ法を後むすむ方。そののた後むすむむは。は。わ
。白との海をさすむ七方。そののた後むすむむは。は。わ
むすむ方

日六千九

山をむすむのた後むすむ方。そののた後むすむむは。は。わ



白のこまをむすむ方。そののた後むすむむは。は。わ

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is written in a cursive script and is mostly illegible due to fading and the angle of the page. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory.

